

道 の 徒 の 聖

一九五八年三月十七日第三版郵便物誌(毎月一回一日発行)
第一巻 第十号 一九五八年十一月一日発行



末日聖徒イエス・キリスト教会

完成への道

当教会の教える「人格の完成」
とは何か。

本書はこの質問に対して「それは
神の如くなる事なり」との重要な
答を提供する。

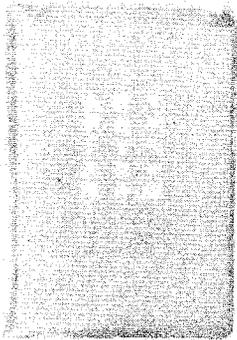
又、当教会の教義、特に系図研
究に志す人の必読の書

¥200



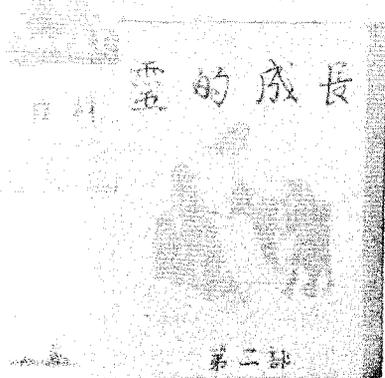
一つにまとまつた末日の聖典。
新旧約聖書と共に、イエス・キリスト
の福音の研究を志す人々の必携の書

¥ 1,100



全初等協会教師の所有せねばならぬテキスト、便宜上、各
教課が四季により分類されている

¥100



教会の標準聖典に基礎を置き豊富な譬話、経験談、
其他活動を含んでいる本書は子供の日曜学校教師に秀
れた教材を提供する

¥150

聖徒の道

一九五八年十一月号

目次

| | | |
|-----------------------------------|---------------------|----|
| 「大管長メツセーシ」 行いの福音…………… | デビド・O・マツケイ大管長 | 二 |
| 「伝道部長メツセーシ」 感謝祭の月に当つて…………… | 伝道部長 ポール・C・アンドラス | 六 |
| 悔い改めよ…………… | 十二使徒会委員 マリオン・G・ロムニー | 八 |
| 「声 明」伝道部長からの発表…………… | …………… | 九 |
| イエス・キリストの御名により…………… | J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長 | 十一 |
| たくまぬ隣人愛を…………… | …………… | 十四 |
| 「質 問 欄」 復活の時まで死者の霊は何処にあるか…………… | 東中央地方部評議員 高 木 富 五 郎 | 十五 |
| 「表紙の説明」 ロンドン神殿…………… | …………… | 十七 |
| 「極東におけるモルモン」…………… | …………… | 十八 |
| 私の 改宗 東中央地方部評議員 野 口 善 二 郎 | …………… | 十八 |

| | |
|--|----|
| 「信仰と証詞」 真の幸福 御恵みを得た喜び 小樽 石尾 つる…………… | 一九 |
| モルモン経物語 (一三三) エマ・マー・ピーターソン | 二〇 |
| 「系図のページ」 報告書(二)…………… | 二五 |
| 大平洋における神殿(中)…………… | 二六 |
| 質問事項の解明…………… | 二七 |
| ワーク・ナイト…………… | 二八 |
| 「日本伝道部の回顧」(その四) 高 木 富 五 郎 | 二九 |
| 「ニュース欄」 西中央地方部秋季大会…………… | 三二 |
| バザーの収入で大会出席費を(広島)…………… | 三三 |
| 二人の兄弟姉妹…………… | 三三 |
| 新しい会場に恵まる…………… | 三三 |
| 九月の岡町の動き…………… | 三四 |
| 伝道本部より…………… | 三五 |
| 「詩 藻」詩 短歌 俳句…………… | 三六 |
| 編 集 言…………… | 三七 |

大管長メッセージ

デビッド・オ・マッケイ大管長

行 い の 福 音

或る日のこと、一群の少年達が水泳を習っていた。そこから少し川下に当って、彼らの首も立たない危険な壺のような深みがあった。この深みの中へ、大胆なところを見せようとしてか誤つてか、一人の向う見ずが飛び込むか落ちるかした。彼は自分で自分を救うためにどうすることもできなくなった。暫しの間連れの少年達も彼を助ける力が全くなかった。ところが幸いにも、落着いていて敏捷な一人が垣根の間から長い竿をぐいと突き出し、その端を今にも溺れようとしている少年目掛けて投げるように差出した。少年はこの竿の端をにぎりしつかり竿につかまつて生命が助かった。



この場に居合わせた少年たちは口をそろえて、あの向うみずの少年は救助の手段を与えた少年によつて生命が助かつたのだと言つた。しかし、彼に与えた救助の手段があつたにも拘わらず、もしあの少年がそれを利用しなかつたならば、また自分の指図であらゆる個人的努力を出さなかつたならば、彼の仲間が示した英雄的の行いがあつたにも拘わらず溺れてしまつたことである。

万人の救いは神の賜

われわれが住んでいるこの昔ながらの世界に於いて、人の子らは現在人生という海の中で遊びたわむれ、泳ぎ、もがいている。これらの中には、岸边に在るイエスを眺めて「私は信ずる」と言うならば誰一人沈んで亡びる者はないと主張する者がある。また、あらゆる人はみな自分の努力によつて岸に泳ぎ着かなくてはならない、然らざれば永久に滅びると強く言う他の者達がある。本当の真理から言うと、これら二つの考えは共に正しくない。万人が死から救われることはキリストが与え給う自由で無代価の賜であるが、神の王国の中で進歩をすることは、各個人がイエス・キリストの福音の原則と儀式とに服従するかしないかによつて定まる。

もしもあの溺れかけた少年が彼に与えられた救いの手段をつかまえなかつたら、川岸に居つてかの少年を救おうとした少年も溺れかけた少年の生命を實際に救うことはできなかつたように、自分からどうしても努力しない人々をキリストは決して「救い」たまわない。また人は、人間を救うためにわれわれの救い主が与えたもうた手段方法を受け入れることなしには自らを救うことはできない。

キリストが福音を与えたもうた

人類の歴史の中には、人類が神の立て給うた賤いの計画を全く知らぬ状態に陥ち込んだ時代があつた。人類は自らの意志のまにまに動く者となつたので「生れながら肉の欲とみだらな欲とに満ち、また悪心のある者になつた」(アルマ書四十二章十節)。自然が彼の神であつた、そして自己保存すなわちこの世に於ける存在を延ばすことが、彼の生きている全部の目的であつた。それが終つたときには、彼の靈は決してなくならないものである

から彼は永久に神の御前から絶ち切られることであろう、それは彼の霊が再び神の御前に帰ることを得る霊の律法を彼が知らないで、その律法に従わないからである。

このようにもがいている人類に、キリストは救いの手段である福音を「与え」たもうた。それは自由で無代価の賜であつた。それは神のめぐみによつて与えられた。「行いによるにあらず、かくの如くなるは誇る者なからんためなり」(エペソ書二章九節)この賜がなければ、人類は自らを救う力は全くない。人類は、あの深いうずまきの中におちこんだ少年のようにどうすることもできない。全く「汝らめぐみによりて救いを得」(エペソ書二章八節)

しかしながら、人類はすでに福音を与えられたのであるから今は何を為すべきであるか。彼の手の届くところに救いのあるのであるから、彼は何を「為さねばならぬ」か。彼はそれを固く握り、勢力と力とを尽してそれにしつかりつかまつていなくてはならない。岸に居り給う救い主を眺めて「私を必ず救つて下さると信ずる」と言うだけでなく、またイエス・キリストの福音の原則にことごとく服従してその信仰を一つの知識にすることは彼の為すべき義務である。言葉を換えて言えば、彼は努力して自らの救いを達成しなくてはならない。

「われを呼びて主よ主よという者ことごとく天国に入るにあらず、ただこれに入る者はわが天に在す父の旨を行う者のみなり」(マタイ伝七章二十一節)

行いなき信仰

キリストは人間のためにあらゆることを皆しておしまひになつた、キリストは言わば網をすでに彼らのまわり投げておいでになつて、人間がどうあろうと安全なところへ彼らを引き給うに違いないと、人間が自らを説きつけようとするのは愚かなかぎりである。福音に就いてこのように偽りの皮相的な考えを持つことは、使徒ヤコブが公然と非難をしているところである。

「わが兄弟よ、人自ら信仰ありと言いてもし行いなくば何の益あらんや。：：或る人言わん、汝信仰あり、われ行いあり、乞う汝が行いを兼ねざる信仰をわれに示せ、われはわが行いによりてわが信仰を汝に示さんと。」

：：ああ愚かなる人よ、行いを兼ねざる信仰の死ぬることを汝知らんと思ふや」(ヤコブ書二章十四)二十六節)

ある事を知つていたりとか、または単に真理の確かであることを感じていたりだけでは不十分である。「人善を行うことを知りてこれを行わざるは罪なり」(エペソ書四章十七節)。いつでも好い機会があるのにわれわれの内部にある真理を實行しない度毎に、いつでも良い考えを言い表わさない度毎に、またいつでも良い行いを實行しない度毎にわれわれは自らを弱め、またこれから先その考えを言い表わすかその行いを實行することを一層困難にする。神と神の義とを愛することは、言葉でなくて行いに於いて示される。

神の最大の賜

永遠の生命は人間に与えたもう神の最大の賜である。そして主は人間に不死不滅を与えたもうに當つて榮えを表わし給う。永遠の生命は知識の結果であり、知識は神のみこころを行ふことによつて得られる。彼がキリストであることをどうして知るかに就いて質問をかけた懷疑論者に救い主は「人もしわれを遣わしし者の旨に従わば、この教えの神より出るかまた己によりて言うなるかを知るべし」(ヨハネ伝七章十七節)と言いたもうた。

このように、キリストが神にましますという証詞と永遠の生命そのものは、人が神のみこころを「行ふ」結果であると真理が強く述べられている。この考えは、予言者ジョセフ・スミスに下したもうた「この故に今や神権者皆各々その義務を覚え」(教義と聖約百七章九十九節)という啓示をわれわれによく考えさせる。自己の義務が何であるかを知つてしかもこれを行わない者は、自らに忠実ではない、また彼の兄弟達に忠実ではない、また彼は神と良心との与える光の中に現在生活をしていない。これがわれわれの立場である、またわれわれの胸にしみじみとこたえるものであり、私にとつて非常に大切なものである。私の良心が、ある明記された道を進んで行くことが正しいと私に言うとき、もしも私がそれに従わなかつたら私は自己に忠実ではない。

イエスがわれわれのためにすべてのことをしておしまひになつたから、心の欲するままに生活しても、もし臨終の際に信するならば、それからイエスの榮光ある御前に救われるに違いないという信仰は最も有害な謬見である。世の救い主イエス・キリストは、天父の王国に於て人が幸福と平和とを得ることが出来る手段を与えたもうているが、人は福音の中にある永遠の原則と儀式とに従ふことによつて彼自らの救いを努力して達成しなければならぬ。

感謝祭の月に当って

ポール・C・アンドラス



恩知らずは最も大きな罪の一つであって、また最も普通にある罪の一つでもあるとこれまで言われているところに間違いはありません。あなたは感謝すべきことがあるならば、あなたは現在どのような感謝を外に表わしていますか。私たちはこれから、或る人は有難く思うがほかの人々は有難くないか。

一、 骨肉を持っている体：多くの人はこの地球上で人間として生きる機会を持つことを非常に喜んで感謝していると思われるが、自殺をする多数の人々や死ねたら死にたいと心から願っているなどのお多くなが示す通り、多くのほかの人々は少しも生きることが有難く思っていないようでもあります。

二、 家族と友人たち：人生で最も強いまた最も満足を与える喜びは家族や友人達との交わりから出てくることを否定する者は少し、しかし家族や友人たちを結び合わせるきずなを確かに破壊することを相かわらずしている人が多くあります。

三、 自由：思想の自由と発表の自由とが法律で保証され、また自分の職業を選ぶ権利と心のままに礼拝をする権利とがその社会の各員に同じく行きわたっている社会に住む特権は如何にも大きい

いではありませんか。それはそうであつても、多数の犯罪人や共産党員たちは、如何に多くの人々がこれらの権利や特権を受けていないかという証拠となっています。

あなたはどうか。あなたは生きる事の特権を有難いと思つていますか。あなたは、あなたの家族と友人とに対して有難いと思つていますか。あなたは自由社会の特権に対して有難いと思つていますか。以上の問に対して否と答える人々は、少しも神を信じていないか、神の御性質について誤った考えを持っているかの何れかです。神の存在を確信すること、神の御性質を正しく理解することは必ず人の心の中へ喜びをもたらします。故にこれがモルモン教会の会員が上に列べて述べた根本的の祝福を切に有難く思う全くの理由であります。

なおモルモン教会の会員は、その心を感謝で満たす更に多くの偉大な祝福、すなわち大ていの人々が僅かしか知っていないか、又は少しも知らないところの知識の祝福を与えられています。

一、 神は完成された人であつて、神は人間の文字通りの父であるという知識。

二、 人間の「天にまします父」は人間を愛したまい、人間が神の偉大な計画の中にあるいろいろな教えに従って生活することによって、人間もまた完全に達することのできる一つの計画をお立てになつておられるという知識。

三、 神御自身が現在地球上に神の教会を親しく設立なさつて、その教会を指導し管理するために数々の予言者と使徒とを置きたもうておられるという知識。

四、 神御自身が親しく設立したもうた教会は現に成長して居り、その教会は地球を全部満たすまで驚くべき方法で成長を続けるに違いない、それからこの世の創り主であり贖い主であるイエス・キリストは地球へ戻つてきて親しく統治したもうに違いないという

次に付け加える偉大な知識は、モルモン教徒が理解して味わっている知識であります。この記事の最初の節で述べた意味を更に拡大し、またその中で並べて述べた三つの根本的的祝福に対する感謝を更に増すのであります。

一、モルモン教徒は一人残らず、イエス・キリストが罪を贖い給う犠牲とイエス・キリストの復活 によって、自分の死なねばならぬ骨肉の体はいつかあらゆる点に於て完全となつて自分に戻り、もはや病にも冒されず死にもしないことを知つて居ります。

二、モルモン教徒は一人残らず、もしも偉大な救いの計画の中にあるいろいろな教えに従つて生活するならば、永遠にわたり完全な喜びを以て彼の家族や友人達と共に交わることを許されるに違いないことを知つて居ります。

三、モルモン教徒は一人残らず、自由意志が永遠の原則であること、また人間は自分の自由を保ちこれを用いることによつてのみ成長し進歩することができると知つて居ります。

以上付け加えられた知識のすべてによつて、モルモン教徒は善は悪にうち勝つに違いないことを知つて居るので、確信を以て現在及び将来の諸問題に直面することができます。モルモン教徒は、真理と正義が勝利を収めて、謬りと不正が失敗に終るに違いないことを知つて居ります。モルモン教徒は、彼らの個人的生活に何が起ろうとも、又は一般に世界に何が起ころうとも、もしも彼らが教会の教えを忠実に守るならば、彼らの愛する者達は永遠の生命と限りない喜びを保証されていることを知つて居ります。地震と台風と自然の大激変が起る時代に於て、自動車と汽車と船舶と飛行機の悲劇が起る時代に於て、原子爆弾と誘導弾の時代に於て、また共産党の拡張と攻勢の時代に於て、モルモン教徒が味わっている優れた知識はモルモン教徒でない人々が味わっていない確信と喜びとをモルモン教

徒に供給するのであります。

あなたはモルモン教会の会員ですか。もし、モルモン教会の会員でなかったら、モルモン教会のいろいろな教えを調べてみたり、あなたの友人であるモルモン教徒達の生活を観察してもよいではないですか。神の眞の教会の会員たちが味わっている非常に貴い知識と偉大な祝福とを、あなた自身のために得ても悪いはずがないではありませんか。

もしもあなたがモルモン教徒ならば、あなたは良いモルモン教徒ですか。あなたは、あなたの持つて居る多くの非常に貴い祝福に対して心の中で本当に感謝をしていますか。

もしも感謝をしていないならば、今良いモルモン教徒になることを始めて、あなた自身のためにこれらの偉大な数々の祝福を得ても悪いはずがないではありませんか。

もしもあなたが上に述べた非常に貴い知識をすでに与えられているならば、あなたは現在あなたの感謝をどのように外に表わしていますか。あなたの感謝を示すただ一つの満足な方法がありますが、それはあなたの毎日の生活で教会の教え通りを本当に実行することによる方法であります。ただ言葉だけの感謝は、確かに満足のできる感謝の証明ではありません。

もしもあなたが、本当にあなたの骨肉の体を有難いと思うなら、あなたはあなたの体を神の殿として取り扱い、またそれをアルコーンやタバコや不純な行為によつて汚されることなく清く保つことによつてあなたの感謝を外に表わします。

もしもあなたが、あなたの家族や友人達を本当に有難いと思うならば、あなたはできるだけ早い機会に神殿であなたの家族に結び固められます。またあなたの家族や友人達といつまでも続いて交わりを結ぶ価値が常にあるよう、あなたが主と結んだ誓約を常に聖く保ちます。

もしもあなたが、あなたの自由意志と、この教会（8頁へ続く）

よめ改悔

十二使徒会会員

マリオン。

G. ロムニー



過去にあってしばしば、人々や国々が破滅に直面した時、主はその承認し給うた僕達を人々に遣わし給い、破滅よりのがれる手段として悔改めを宣べ伝えさせ給うた。「ノアは人の子らに悔改めを叫んだ」、そ

して「人々はノアの言を聴かなかった」がしかし「ノアは民にその教えを説くことを続けた」……。
十五世紀半前、自らの不義の故にニーフアイ人の残りの人々はアメリカ大陸にあっ

てその兄弟であるレーマン人によって滅されつゝあった。この民の中に、大いなる予言者にしてまた指導者であったモルモンがいた。このモルモンに対して主は次のように仰せになった。

「この民に向って『悔い改めて主に立ち帰り、バプテスマを受け、主の教会を回復すべし。さらば生命助かるべし』と云え」と「そこで私はこの民に向ってよばわり、主が仰せになったことを云い伝えなければ、民はこれまでその生を助けて悔改めの機会を与えたもうたのが主であることを悟らぬに、むしろ神である主に對して一層こゝろをかたくなにした」
(モルモン書三章二―三節)

それ故、ニーフアイ人はジェレド人と同じようにアメリカの地より一掃されてしまったのである。モルモン経中に記されている輝やかしき約束があったにも拘らず、この破滅は真実起つたのである。実にモルモン経に記されているすべての約束は悔改めを条件としていたのである。

我々が今日生を享けているこの世界は死の間近い病める世界である。所でその病は今日に始まった新しいものではなく、実に世の太初よりあったものである、その病名は「不義」であって、この病の治療法は他ならぬ「悔改め」である。

(7頁より続く)の会員としてあなたに与え

られたあらゆる特別の非常に貴い祝福を有難いと思ふならば、あなたは正しく生きることを選びます。あなたはあらゆる処置をとるとき、自分に対してまたあなたの同胞に対して正直であります。あなたは神の王国をうち建てるために自分自身と自分の持物をすべて献げます、またあなたは教会の中で活潑に働くことを喜びます。上に述べたように、あなたは自分を肉体的に清く保ちます。あなたは自分の「自分の一」といふいろいろな献金とを喜んで納めます。あなたは教会に於けるあなたの指導者達を支持いたします。要するに、あなたはあなたを知っている人々のすべてにとつて生きていく光となります。これはあなたの感謝を示す最も良い方法であるばかりでなく、神の喜び給う唯一の方法であります。

昔からの感謝祭の月である十一月に、また一年中を通して、モルモン教徒と言われる価値のある人は一人残らず感謝に満ち、この感謝を義しい生活を実行することによって表わすにちがいありません。あなたはどうかありますか。



伝道部長からの発表

伝道部長 ポール・C・アンドラス

一、 地方部大会旅行基金のこと

地方部大会へ出席することは当教会の会員一人残らず靈の幸福を得る為に非常に大切であります。会員は一人残らず、自分の属する地方部の各大会に出席する事を望むべきであります。出席を望む者からこの好い機会を取ってはなりません。会員の百パーセントが大会毎に出席すべきであります。従って、これにより、来年の春に開かれる各自の地方部大会に出席できるように、今計画を立てることを会員一人残らずに勧告します。貯金をして、今あなたの予定を立てなさい。

遠く離れた支部の会員達は、会場の近くに任んでいる会員達よりも大会に出席するために一層多くの費用がかかります。従って地方部大会へ出席するために財政上の援助を要する人々を助けるために、各支部には地方部大会旅行基金が設けられて居ります。これらの基金の金の金は各会員の自発的の寄附金からなされるのであって、寄附された金の全部は、その金が寄附された地方部の中で使われます。各家族は毎月少くとも百円をこの基金の中へ

寄附をするように、また収入のある独身の会員も毎月少くとも百円をこの基金の中へ寄附をするように提案します。集まった基金はみな伝道本部へ送られ、地方部大会の時に要に応じて使用するため銀行に預けられます。もし誰も彼もみな、提案されたようにこの基金へ忠実に寄附をするならば、地方部大会毎に出席する財政的援助を要する人々を皆助けるために十分な基金を募集できると思います。

三、 各宣教師と女性会員との関係

各宣教師と女性会員との関係に就いて教会の各会員の心の中にある誤解が近頃いよいよ明らかになってきているので、私は当伝道部の全会員と求道者の心の中に、これに関する教会の方針をはっきりしておくためにこの声明を出す必要があると思えます。

宣教師は妻を探すために伝道地へ来ているのではありません。実際、宣教師がその職に就く時は、宣教師は一人残らず自分の時間と才能と力とをことごとく主の御業のために捧げますという神聖な誓約を主と

結びます。各宣教師が伝道地に居る間、その宣教師は自分の個人的の事柄に関係せず神の王国建設のために全く自分を捧げる厳粛な責任を負って居ります。

以上述べたことによつて、自分の未来の結婚についてすら思いをめぐらすことを自らに許す宣教師は、彼が先に主と結んだ誓約を現に破っているのであります。私はこれまで当伝道部の宣教師一人一人に、当伝道部のどの姉妹に対しても宣教師自身の持つて居る愛慕の気持について口に出したり、書いたり又はどのような方法を以てしても伝えたりしてはならないと、親しく命じて居ります。このような事をする宣教師は誰であつても、彼が主と結んだ誓約を現に破っているのみならず、また伝道部の規則も破っているのであります。これによつて、当伝道部の女性会員は一人残らず、宣教師と愛慕の関係を起そうとし、または実行しようとする事によつて主の御業を妨げないように願います。宣教師に結婚の申込みをしたり、または宣教師に対して愛慕の気持を表わす手紙を出す女性会員が僅かながらある、或る時には相当あつた、ということとは甚だ残念なことであります。私は宣教師一人残らずにこのような手紙は破つて捨ててこのような手紙に決して返事をせぬように命じて居ります。これまで時々或る女性会員が独りで宣教師のところへ行つてその宣教師に対する彼女の愛情を告げたことがあります。これによつて、どの女性会員もみな宣教

師に対する自分の愛情に就いて、どの宣教師にも手紙を出したりまたは他の方法で伝えたりしないように指令します。このようにする者は誰であっても現に伝道部の規則を破って居りまた主の御業を妨げているのであります。

サタンは改宗をおくらせるこの巧妙な方法を用いる熟練者であって、各会員の間に悪感を起らせ、宣教師と会員にその貞操を失わせて教会から断ち切られるようにします。伝道地に於て姦淫または淫行の罪を犯す宣教師は誰であっても即座に破門されることは何人もみな確かに承知していることとありますが、同時に事情に応じて他の当事者に対しても同じ措置がとられなければならぬということもまた何人も確かに承知していることとあります。

各宣教師がこの問題と戦うことを助けるために、次のような伝道部規則がすでに設けられて居ります。すなわち、
一、宣教師は決して異性の人をその名前（姓名の中の名の方）で呼んではならない。
二、宣教師はその割当てられた同僚宣教師と決して離れてはならない。
三、宣教師は決して異性の人と単独で一室に居てはならない。

四、宣教師は握手をする時以外、決して異性

の人に触れてはならない。
当伝道部の宣教師は一人のこらず以上の規則を知って居りますが、会員の中には明らかに今までこれらの規則を知っていない人々が第に述べた声明がこの点に關する教会の方針をはっきりさせることを期待し、また会員が一人のこらずこの方針に従うことと伝道部の規則を守ることと協力するように願う次第であります。

☒ 書 案 内

| | |
|----------------------|--------|
| 教義と聖約・高価なる真珠・モルモン經合本 | 1100 円 |
| 教義と聖約・高価なる真珠 | 300 円 |
| モルモン經（新訳） | 200 円 |
| 新旧約聖書（口語体・文語体） | 300 円 |
| 回復された神の教会（神権会用） | 150 円 |
| 完成への道 | 200 円 |
| 初等協会教科書 | 150 円 |
| 扶助協会手引 | 50 円 |
| 綜合聖句の手引 | 150 円 |

日 曜 学 校

| | |
|-----------------|-------|
| 福音の實踐 | 150 円 |
| 古代アメリカの生活 | 100 円 |
| 聖典中の指導者 | 150 円 |
| 靈的成長(2) | 150 円 |
| 新求道者のための福音の根本原則 | 25 円 |
| 家督権の祝福 | 100 円 |

M I A

| | |
|-----------------|-------|
| 役員指導者の手引 | 100 円 |
| 我等の指導者の言葉・福音と生活 | 100 円 |
| モルモンとは | 100 円 |
| 演劇指導者基礎知識と脚本集 | 75 円 |
| 演説が上手になる法 | 150 円 |
| 社交ダンス必携 | 160 円 |
| 新しいフォークダンス | 50 円 |

註文は各支部長へ

讚美歌及び歌集

| | |
|------------|-------|
| 末日聖徒讚美歌 | 300 円 |
| 末日聖徒讚美歌抜萃 | 30 円 |
| 子等は歌う | 100 円 |
| レクリエーション歌集 | 400 円 |

イエス・キリストの名により

第二副管長 J・ルーベン・クラーク・ジュニヤ



① 私 の面前に居り、又ラジオを通じて聞いて居られる兄弟姉妹の皆様は皆さんと共に今朝の集會で

得た栄えある靈感と、それが私共が世の注目の内に進んでいる道へ向って、また課せられた任務に向っての勇気を鼓舞してくれた事を、また其の他の訓示を受けた事を心から喜ぶものであります。私は心から私が今日何か私たちの信仰を築き上げる実のある話が出来ると祈り、私が根本的な大原則だと思ひ、すべて我々が信じ且つ知っていることの根底となつて居る二大事の一つである大いなる原則に注意を向けられるよう望んで居ります。

パウロはコリント人への最初の書簡の始めに於て「我は感謝す、クリスポとガイオの他には、我なんじらの中の一人にもバプテスマを施さざりしを」と言っています。そして彼

は彼等の異教と無信仰の故に多かれ少かれ其の他の者は拒つたのであった。最初の書簡の始めに彼は彼等に彼がこの事に就いてどう感じて居るかを告げたした。彼は言いました。「イエス・キリスト及びその十字架に釘づけられ給いし事のほかは、汝らの中にありて何をも知るまじと心を定めたればなり」

(コリント前書二章二節)
これに関連して私は皆さんが復活に就いて述べてあるコリント前書十五章を読まれるように望みます。皆様はそこで復活に就いて世の中に説かれて来た偉大なる巧みな説教を読むでしよう。その中でパウロは理論的探求と大いなる議論を以て、若しキリストが復活しなかつたらすべての我々の信仰及び教えられた事が如何に空しいものであるかを示しました。

これに関連して私はペテロとヨハネが神殿を訪れた時の言葉を思い出します。彼等が異教徒の庭から彼女の庭に進み入ろうとした時、美麗という門の処で数年間施しを乞うている乞食に逢いました。彼は中に入る人から施し

を乞い求めて生活してしました。ペテロとヨハネは一寸立止って彼に向つて

「我等を見よ」

と言いました。彼は彼等から施しを期待しながら見上げました。そこでペテロは彼に向つて言いました。

「金銀は我になし、然れど我に有るものを汝に与う、ナザレのイエス・キリストの名によりて歩め」

こう言つて彼の右手を取つて起してやると、足とくるぶしとが立ちどころに強くなつて踊り上つて立ち歩き出しました。そして、歩き回つたり踊つたりして神を讚美しながら彼らと共に宮に入つて行きました(使徒行伝三章一―八節参照)

ユダヤの司たちはこの挑戦に堪えることが出来ませんでした。ペテロとヨハネは捕えられて牢獄に入れられました。朝になった時彼等は大祭司アンナス及び彼の婿でローマ政府によつて肩書だけの大祭司であつたカヤパ、ヨハネ、アレキサンデル及び大祭司の一族、其の他長老会の会員たちの集つた前に引き出されました。この者達はペテロとヨハネに、「如何なる能力と如何なる名によつて此の事を行つたか」と迫りました(使徒行伝四章一―二節参照)

ペテロは辯護して言いました「：：：ナザレのイエス・キリスト即ち汝らが十字架に釘づけ：：：し者の名に頼る」更に彼はつけ加えて

「他の者によりては救いを得ることなし、天の下には我らの頼りて救わるべき他の名を、人に賜いし事なければなり」

(使徒行伝四章一〇、十二節)

今日大きなクリスチャンの世界がイエスはキリストであると言う、早期の眞の信仰から後退しつつあります。彼等はキリストを違ったように説明しています。彼等はキリストから神聖なる権威を取除こうとしています。

一つの大きな教会は明らかに以前に彼等をキリストに結びつけていたバンドをキリストの位置にその母のマリアを据えることによつてゆるめています。私たちは私たちの信仰によつてナザレのイエスはキリストであることを知つて居ります。これは私たちの知識であります。私たちは常にすべての環境下に在つてそれを宣言しなければなりません。

貴方はクリスチャンの世界が私たちの持つている知識を持つている事を容易に理解することが出来るでしょう。何となれば聖書、旧約聖書はキリスト及び彼の働きに就いての記事に乏しいからであります。詩篇の中に彼のはりつけに就いて述べ彼の誕生に就いて告げた輝かしい文があります。けれども大きく彼に就いて多く告げられてある処はありません。

何故ナザレのイエスはパウロやペテロによつて述べられたようにクリスチャンの世界で偉大な重要な地位を占めていたのでしようか。現代の啓示がこの事を私たちに示しました。私は墮落と贖いについて今こゝに論じてい

る時間を持ちません、ただわずかの事を申上げたいと思ひます。

私たちは大会議とそこでなされた決定に就いて知つて居ります。また私達は靈が肉体を取る為に靈の世界からこゝに来れるようにこの世界が造られた事をも知つて居ります。

私たちはアダムが園に置かれたこと及び二本の木に就いて彼に誠命が与えられた事をも知つて居ります。私たちは善悪を知る木に就いての誠命に対する不従順をも知つて居ります。私はそれを罪を犯したと叫びたくないので。何となればアダムの行為は予見された事であり世の存在する前から彼がなした事は彼が為すであらうと計画されていたのです。

けれども不死の人が主の誠命を守りませんでした。不死の人が実を食へました。その結果不死の人が苦しめられたのでした。アダム及びイヴは死すべき者となり、彼女は其の後今や彼等が子孫を持つ事が出来るようになった為、従わなかつた事を喜び大いなる讚美の歌を歌いました(モーセの著五章一節参照) 私たちは彼等が子孫を持つことによつて始めに大会議で画かれた計画を成就することが出来たことを知つて居ります。

アダムは死すべき者となり靈的死が彼にもたらされました。これは人類史上に於ける、最初の大なる危機であります。実際に於てこれを以て人類がつくられたと言うことが出来るかも知れません。彼がその始まった処へ戻る為にはこの不従順に対する償ひが必要であ

りました。

彼が後戻りをする事が出来ない、即ち食べたものを吐き出すことが出来ないことは明らかであります。彼は死すべき存在でありました。彼の子供達が如何に善かろうと彼等もまた死すべき存在であり彼が持つていたよりも大きな能力を持つていませんでした。そこで不従順の支払いをなす為にはアダムの子孫のように死なねばならぬ者でなく誰か死に打克つ人が神の力によつてみごもられねばなら

なかつたのでした。誰か女から生まれるけれども神聖な方でなければなりませんでした。その人だけが私たちをして主の時節に肉体と靈を再び結合することを得せしめそして天父の面前に戻つて再び結び合わされ遂に肉体と靈と共に永遠に及ぶことが出来るようにする犠牲をなすことが出来るでしょう。

ナザレのイエスは世の造られる前から選ばれた一人でありました。そして地上に此の奉仕を遂行する為に来た、又人の靈が肉体を回復して再結合出来るように墮落を贖い、死を克服するであらうところの天父の独り子でありました。

(註：エルサレムでイエスは群衆に語つて言いました。

「之によりて父は我を愛し給う、それは我ふたたび生命を得んために生命を捨つる故なり。人これを我より取るにあらず、我みずから捨つるなり。我は之を捨つる権あり、復これを得る権あり、我この命令をわが父

より受けたり」)(ヨハネ伝十章十七―十八節)

この理由で如何なる善人と雖も、たとえアダムの息子であっても、私達を私達の天父の面前に連れ戻すであろうところの贖いをなすことは出来なかつたのであります。依然として彼は食べた果物を吐き出すことは出来ませんでした。イエスはアダムの息子ではなく天父の子でありました。

ヨハネはヨルダン川でバプテスマを施していた時、イエスが近づいてくるのを見て叫びました。

「見よ、これぞ世の罪を除く神の子羊」
(ヨハネ伝一章二十九節)

記録は罪に就いて語って居りません。

私たちはしばしばキリストは所謂、原罪だけを贖ったのではなく普ねく我々の罪をも贖ったのだと教えられて居ります。私の理解するところでは復活に関する限りキリストは肉体的死を克服して私たちの罪を贖ったのであります。このことは私達がこの地上で如何なることをなそうとも、たとえ許され難い罪を犯そうとも、なお且つキリストの贖いは及んで私達の復活をもたらすのであります。けれども復活して後私達は肉体の時の行為、善又は悪によって裁かれるのであります。裁きの日に私たちは報賞か刑罰かを受けるのであります。私達は私達自身の罪に対して支払おねばなりません。

これを考えます時、私達はイエス・キリス

トの贖いの教義の為に、彼の思考の神聖さの為に、彼の罪なき生涯の為に、また彼が自らその生命を捧げた神聖な死の為に強く立たねばなりません。キリストは殺されたものではありませんでした。彼は彼の生命を捧げたのであります。

私はキリストは、その生涯を通じて御自分の神聖なることの証拠を与え、神聖なる能力と權威を示されたと思います。しばしば神によって生まれなかつた他の予言者達がキリストの或働きをなした事は真実であります。若し貴方がこの事を心に留めて見て行くなら貴方はキリストが海の上を歩いて重力に挑戦したことを思い起すでしょう。また貴方は彼が風や波や嵐のような要素を支配した事をも、また彼が四千人、五千人の人に給食した時に食物を作り、水からぶどう液を造る為に創造の能力を行使したことを思い起すでしょう。また貴方は彼が如何にあしなえ、盲者を癒したかを思い起すでしょう。貴方はまた彼が如何に死んだ人を生命に呼び戻したかを思い起すでしょう。貴方はまた彼が悪魔と戦って勝った事、彼が死んで復活した時の大勝利を思い出すでしょう。

私はしばしばキリストの生涯の内でも最も美しいと思われのは彼が無慈悲に、不法不正に裁かれて後、昔の人が工夫出来た最大なる苦痛である十字架の死の苦難を蒙っていた時に語った言葉であると考えます。彼が十字架の上に釘づけられて今や息をひきとろうとす

る時、それを聞いていた人が証詞したように次の通り言いました。

「父よ、彼らを赦し給え、その為す所を知らざればなり」

(ルカ伝二十三章三十四節)

私たちの使命：私達の働きの根本的な目的は、不断にイエス・キリストの証詞を述べることであります。私たちは決してキリストが単に大いなる教師であり哲学者であり、倫理学大系を建てた人であったと考え、また教えるべきではありません。日々年々常にナザレのイエスは世界全人類に贖いをもたらしたキリストであることを宣言することは私たちの義務であります。

私は神が生きて居り、イエスはキリストであり、彼は神によって生まれ、その生涯を生活し十字架にかゝり三日目に起上り復活の初穂となつて我々すべてに復活することを可能ならしめたことを知っていることを証し致します。私はキリストが天父と共に若い予言者に現われて時満ちたる神権の時代を開いたことを証し致します。

私は回復された福音の真実なることを証し致します。

私は神権の回復されたことを証し致します。私は教会の大管長として予言者、聖見者、啓示を受けて与える者として予言者ジョセフが握っていた鍵は、彼から今日迄教会の大管長会と共に続いて現在のデビッド・O・マツケイ大管長迄伝つて来たこと(十四頁に続く)

たくまぬ隣人愛を

東中央地方部評議員 高木 富五郎



キリスト教は人を愛するということになると其の教さらに「愛の宗教」少ないかに思われますが何故でしょうか。けだと言われます。し「神の誠命」を軽視する結果ではないだろたしかに聖典のうか。意識するとしないとに拘らず「神の誠命」を守る人は古今東西を問わず幾人もあります。えに充ち満ちて

(十二頁の続き)を証し致します。
神は私たちに日に々々この証詞を増大させて下さい、神は私たちが常にイエスがキリストであり此の世の人類に与えられた、私たちのこれによってのみ救われる唯一の名であることを宣言するように能力と信仰と勇気を与えてくれます。
これが此の民の最高の義務の一つであります。私たちがそれを完全に成就することが出来ますように私はへりくだって主イエスの名に於てお祈り致します。アーメン

の通りですが例えばパリサイ人が集まってイエスを試みるために「律法のうちいずれの誠命が大きいか」との質問を發したのに対してイエスは

「なんじ心をつくし、精神をつくし、思いをつくして主なる汝の神を愛すべし」これは大にして第一の誠命なり。第二もまた之れにひとし「おのれの如く、なんじの隣人を愛すべし」律法全体の予言者とは此の二つの誠命によるなり」

(マタイ伝二十二章三十七、四十節)と直截簡明に答えられたとあります。

愛とは神に通ずる真直ぐな道であって、義人はこの道以外は通らないものですが、その道を通る人は数多くないようです、殊に隣

不世出の教育家ベスタロツチ(一七四六

一八二七)が七才の時、いつものように母親から小遣錢を貰って菓子屋へ菓子を買いに行つた。すると店番をしていた十二才になる菓子屋の娘が「お菓子を買っちゃいけない。そのお錢で何か為めになるものを買いなさい。お菓子は売ってあげないよ」と菓子を買ってくれなかった。この時ベスタロツチは幼年乍らもその娘の言葉に深く感動して、爾來彼は一切買い食いをしなくなつたという。その娘が後年ベスタロツチ夫人として貧民教育に生涯を通じて内助の功を立てた人である。

ベスタロツチは貧民学校を建てる少し前のこと、街上で見すばらしい一人の貧兒に出遇つた、この哀れな子供に何か与えずに

は居れない、だが何も持っていなかった。そこでとつさにしゃがんで履いていた自分の靴の紐をほどいてこれを其の少年に与え、自分は道端にあつたワラで靴を結んで帰つたという。

當時の人は彼を変人だの狂人だの言つては嘲つたけれど、彼は心から貧民を愛し、隣人を愛さずには居れなかった。そして教聖として後世に其の善行をうたわれたのも彼の心がいつも「おのれの如く隣人を愛」さずには居れなかったからに外ならない。

まことに愛は珠玉のように貴重な宝物であります。若し人生に愛がないならば平和も安寧もなく、鬭争と撃突が巷に充満するは火を見るよりも明らかであります。

「たとい我もろもろの國人の言葉および御使の言葉を語るとも、愛なくば鳴る鐘や

響く「にょうばち」の如し。假令われ予言する能力あり、またすべての奥義と凡ての知識とに達し、また山を移すほどの大なる信仰ありとも愛なくば数うるに足らず、たとい我わが財産をことごとく施し、またわが体を焼かるるためにわたすとも、愛なくば我に益なし」

(コリント前書十三章一―六節)

とあるが、しかもキリストは「己れの如く隣り人を愛せよ」という。その「隣り人とは誰か」ということはキリストがハツキリと例を挙げて教えて居られます(ルカ伝十章二十七―三十七節参照)

隣人愛については日本でも「我が身をつねって人の痛さを知れ」とか、中国でも「己れの欲せざるところを人に施すなかれ」というような格言がいろいろあるが、これらは何れも思いやりのある博愛、仁愛を施せという点において共通の意図が含まれているのであります。

アメリカの独立戦争の時、司令官ワシントンが数日絶食したほどの大激戦のあとを巡視に出かけたが、偶々一歩硝の立っているのを見て「わが卓へ行って食せ」と勧めたが歩硝兵は「勤務中なれば遺憾ながら御好意に添い難い」と辞退した。そこでワシントンは「もっともだ」と気が付いて自ら兵の銃をとって歩硝に代った。

「即ち兵喜んで二日の絶食の腹を充たして感泣した」

と書いてあるが、まさに愛の極致は深遠であります。しかも神の愛に至っては絶対であります。神の絶対愛を感じるならば、われら互に相愛する如きは必然のことではなければならぬ。「愛というは我ら神を愛せしにあらず、神われらを愛し、その子を遣わして我らの罪のために「なだめ」の供物となし給いし是なり」とも誌されてあります。神の愛を想起するならば、私たちが互に相愛するなどいと易いことではなければなりません。

隣人愛を実践した例はわが日本にも数多くありますが、次の話も顕著なものの一つであります。

奈良朝時代、聖武天皇の皇后は熱心な仏教信者で観音の慈悲を實踐しようとした。

質問欄

復活の時まで死者の

霊は何処にあるか



「質問」
アルマ書四十章十一節―十四節に誌されているアルマの言葉の説明を乞う。死んだ時のすべての人の霊は備えられた霊界へ行き、そこで復活を待ち、復活の時まで天父なる神の御許に行かなかつたと私は理解している。若しアルマの言葉が真実であるなら、何故イエ

即ち隣人愛に徹しようとする心かけたのです、そこで宮中へ立派な湯殿を建築して下層階級の者に自由に入浴させた。庶民の喜ぶ姿にご自分も心榮しく思ったばかりでなく、イ病患者などへは手ずから背中を流してやって彼等の心を慰めてやったという(これは秘密にして側近に口止めしてあったが)皇后が亡くなってから後にその話が世上に知れて、皇后の隣人愛精神に心うたれないものがなかつたとのことであります。
真に神は愛なり、愛は神なりであります。何のたくむことなくして隣人を愛さずしては神を喜ばすことはできません。重ねて申し上げます、キリスト教は「愛の宗教」であります。

「解答」

アルマ書の言葉はアルマが息子のコリアン

トンに最後の教訓を与えた時に語ったもので、浮れ女に迷わされたコリアントンが神の正義についても疑惑を持った時、アルマは悪をさけて主にたちかえるよう彼をいましめたのである。アルマの言葉の意味を完全に理解するために、彼の語った言葉を引用してみよう。

「さて死んでからよみがえる時までの霊の有様はどうであるかというに、ごらん、あらゆる人の霊はそれが善であっても悪であっても、この死ななくてはならぬ肉体を離れるとその霊に生命を与えたもうた神が備えたもうところへ帰るのである。これは天使が私にお示しになった。その時義しい人の霊はパラダイスとなえる幸福な有様、すなわち安息と平和な有様に入り一切のわずらいと憂いと悲しみとを離れて息む。次に、悪人の霊は少しも主の「みたま」とかわりがなく善いことよりも悪いことを好んだので悪魔が入ってこれらの者を支配していた。それであるから、これらの者の霊はその暗やみの有様に追い出され、泣き悲しんで齒がみをするのである。これはかれらが自分で罪悪を犯し、悪魔の意志に負けてその奴隷になった結果である。これがすなわち悪人の霊の有様で、彼らは暗やみの中で大そう恐れおののきながら自分たちを下る火のような神の怒りを待っている。かれらは復活の時までこのような境涯に止まらなくてはならない。しかしこれと同時に義人はパラダイスに在る」

(アルマ書四十章十一―十四節)

以上のアルマの言葉は、すべての霊が平和なところか、もしくは、罰のところを割り当てられるため神の御許に戻り、そしてその御前で個人々々の審きに与るといふ考えを伝えていないと私は理解する。「神が備えたもうところに帰る」とは単に彼らのこの世に於ける存在に終りが来たって霊界に送られ、そこで彼等の義、または不義なる行いに従ってところを与えられ、その各々のところで復活の時を待つのである。「神のところに帰る」とは他の多くのよく知られた状態にもその同じ意味を見出し得る言葉である。例えば、ある人がある外国の地で伝道にある期間を過して本国に帰還すると「家に帰るのはいいものだ」と云うだろう。しかし、その人の家はユタ州であるかもしれないし、またアイダホ州であるかもしれないし、また西部の他の地域にその人の家があるかもしれない。パラダイスは予言者ジョセフ・スミスによると肉体を離れた霊の居るところである。ギリシヤ語の HADES、ヘブル語の SHEOL | これら二つの言葉は霊の世界を意味する。キリストが復活される前、不義なる者たちは暗黒の中に閉じ込められていた。そしてこの苦しい状態にあって、彼らはアルマの述べた如く、自己の行末がどうなるかを知らず、良心の苛責に苦しみ悶えていたのである。この霊界に於ける悪人たちの有様について主がエノクに与えた御言葉からもって明らかに知る

ことが出来る。

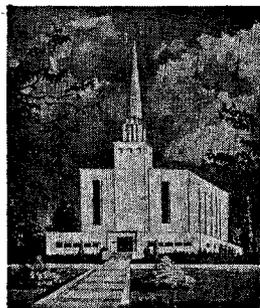
「されど見よ、彼らの罪は彼らの父の頭に帰すべし、サタンは彼らの父となり、不幸艱難は彼らの破滅とならん。さればすべて諸々の天も、わが手に成れるすべての工なるものも彼等の不幸を泣かむ。この故に、これらの為さるるを見て天これが為に泣かざらむや。されど見よ、汝の眼見るところの者たちは洪水の中に亡びなん。見よ、われ彼らを閉ぢ込むべし。彼らのために一つの囚屋を備えたり。而してわが選びし所の者、わが前にとりなしをなせり。この故にその者彼らの罪のため苦しまん。彼ら「わが選びし者」のわが許に帰る日に悔い改むれば、その日に至るまで彼らは苦惱の中にあるべし。これを以て、これが為に天もまた誠にわが手に成れるすべての工なるものも共に泣かむ。」

(モーセの著七章三十七―四十節)

以上の聖句から、主が罰を喜び給わないということを知ることが出来る。しかしながら、受け入れねばならない正義の要求があるのであり、それ故に、悪人たちは強いて苦しみを受け、その苦しみが彼らをその罪から清めるのである。救主が霊界を訪れたもう前は、義なる者と不義なる者とを分ける一つの淵があり、不義なる者は明らかに自分達を待ち受けているものが何であるかを全く知らなかった。救主は十字架にはりつけにされて後、この淵に橋渡しをされ、福音がこの暗黒の中をさま

表紙の説明

ロンドン神殿



う霊たちにもたらされた。そして神権を所有する人たちの教えにより、これらの不幸な霊たちは福音の説き明かしを受けたのであった。彼らはこの地上に於ける彼ら自身の行い及び地上に生きていた時には、福音に耳を傾ける機会があった者と、またその機会のなかった

者とがあったが、この霊界に来てそれと同じ福音を聞いて受け入れた故に、ある程度の祝福を与えられた。イエスが墓場でマリヤに語られた言葉から考えると、イエスは十字架にはりつけにされた時から復活される時までの間、父なる神の

御許にも登らなかつたし、またその御前にも居られなかつたということが明らかにされるように思われる。救主がマリヤに語りたもうたこれらの言葉は、死ぬすべての人の直面する状態——死と復活との間の状態を示すものと考えられる。

のかゝった窓は建物を通して、非常に高い天井に殆ど達せんばかりである。

献堂式を挙げる前に神殿を訪れた多くの有名な人々が何か所感を残して行っている、例えば英国上院議員の唯一の婦人議員であるリ

ーディング女史は訪問の後称讃して言った。「私は其処で未だ曾って感じたことのなかった神の御霊を感じました。私は心の中に平安を感じました。何故だかわかりませんが」

すべての神殿の高貴な使命に加えてこの神殿は教会と一万一千の生きた会員の居る国との間を結ぶ強いきずなの記念碑である。この国から五万五千の教会の会員がアメリカの聖徒たちと共に住むべく西部に移民したのである。英国の先祖から三十五名の教会幹部が、また同様に八名の教会の大管長が出たのである。

この神殿の完成は大いなる伝道の成功と忠実なる民の進歩の標石（道標）である。

最近、セルヴオイ・J・ポイヤール長老が、この新しい神殿の管理会長に任命されたこと発表された。今や神殿の儀式は英国に於ても始められ、世界中を通じて使用されている神殿は十二となった。米国合衆国内に七、カナダ、ハワイ、ニュージーランド、スイスそして今また英国に各一つずつである。

新しく完成したロンドン神殿の二週間半に亘る一般公開の間に八万の群衆がこの神聖な建物を見ようとして殺到した。

デビッド・O・マツケイ大管長が満三日の献堂式を司会し数千の聖徒たちが全ヨーロッパ及び西部より訪問した。この聖徒たちの集合の結果周辺の村落道路は非常に錯綜したのであった。美しい新しい神殿はイングランド・リングフィールド市近くのニューチャペルと呼ばれる平和なゆるやかなうねりを以て少し高く盛上った農地に位置している。草木の密生した三十二エーカーの静かな地である。一九五五年マツケイ大管長が公式にくわ入れをした時に六億一千二百万円の建造物が着工されたのであった。その時より特に選ばれた建築資材が世界中から到着し始めた。一九五五年五月に十二使徒会の会員であるリチャード・L・エヴァンス長老が定礎式に教会の大管長を代表して出席した。

たのであった。新しい神殿は本年の八月中にその期限内に完成する迄絶えず主の祝福を受けて工事は続行されて来た。公式の献堂式は一九五八年九月七日に挙行された。この近代的建物の外観は非常に顕著であるがその設計は非常に簡単である。正方形の敷石の長い舗道がこの巨大な白亜の建物に接近している。長方形の建物は高い鉛と銅の尖塔を支えている。丹念に草花の植えられた庭園が、神殿を取巻いている、そして遙か後方の背景も同様に濃い緑に色彩られている。内部の設計も同様に近代的である。家具と掛毛せんは明るい緑かっ色である。浸礼盤は十二の青銅の牛の上に支えられている。これは死人の為のバプテスマを執行する場所である。殆どの神殿には儀式を執行する部屋に美しい真に迫った壁画があるが、この新しい神殿では同じ目的の為に幻燈を以てうつす画に変えられた。殆どの部屋は皮覆いの椅子が設備され、あらゆる照明は間接照明である、長いカーテン

極東におけるモルモン

私の改宗

……私は如何にして真理を見出したか……

東中央地方部評議員 野 口 善二郎

此の教会に私が始めて導かれてからやがて満十年の日を間近にした今、貴重な紙上に於て既知未知の諸兄姉に私のささやかな経験と証詞を申上げる機会を戴いたことを心から感謝致します。



この末日聖徒イエス・キリスト教会に出ることが出来た。その間幾多の師友や東西の書籍から多くの貴重なものを学びましたが不幸にもそれらは私に完全な福音の教義と原則と権威と能力を具えた「イエス・キリストの教会」を指し示して呉れませんでした。私

の前にあったものは銘々勝手な主張をしている幾多の「キリスト教会」——特定の教派教団の会——に過ぎませんでした。私は自分がまさしくアモスの予言した通りの状態にあることを知りました。

私はイエス・キリストこそ人類の救主、わが救主と信じ、心から主の教会をたずねること十年にして漸く

「主エホバ言いたもう 視よ日至らんとす。その日我ききをこの国におくらん。是はパンに乏しきに非ず 水に渴くに非ず エホバの言を聴くことのききんなり。彼らは海より海とさまよい歩き北より東とはせまわりてエホバの言を求めん。然れど之を得ざるべし。その日には美しき処女もわかき男もともに渴きのために絶えいらん」
(アモス書第八章十一と十三節)
そこで私はひそかにこういう決意をしました。

「神様とキリストが生きて在すならその完全な福音を有する真のキリストの教会も必

ずどこかに存在する筈だ。それをこの眼で見付けてはつきり納得が行かないうちはやたらに其処らの教会にかけ込むようなことはしまい」と。

不幸な戦争の末期に沖繩列島の一つで砲撃ときがと悪疫にさいなまれ、人の生命が小鳥や虫けらのようにあえなく失われるのを見た時も、若し命永らえて帰ることが許されるなら、それは自分に未だ此の世で為すべき何か大切な事が残っているからだ、と幾度か感じました。試練は戦後もなお数年間私の上に続きました。その苦難のときに神は限りない愛とお計らいをもつて福音の真理に私を導いて下さいました。アンドラス長老のお勧めで始めておぎくほの日曜学校に出席した時、未だ一言も聞かない中から私の心は打たれた皮膚が痛みを感じるようにはっきりと「これが本当の教会だ。お前が永い間探していた真の教会だ」と感じました。その日私は救主を見たとまつたシメオンとアンナのようにあふれる欲びに胸が膨れあがるのを抑えることが出来ませんでした。それ以来乾いた大地が慈雨を迎えるように私の心は舌つずみを打って純粋な福音を飽食しました。何とその美味であったことよ！

私は末日聖徒イエス・キリスト教会が真にイエス・キリストが嘉し給うてその御名を賜うた唯一の彼の教会であり、キリストの福音を欠ける所なく完全に保有し、あなたと私を含めて全人類を救う力のある原則と方法と権

能とを所有していることを知り、自分がそこから離れない限り必ずその救いと向上の御約束に与ることが出来ることを心から喜んでい
ます。又聖書と共にイエスをキリストと証し、互に聖典の真正を証明して福音の教義をより明らかに示して呉れる諸経典が我々に与えられてあり、これ等がいずれも神の靈感にあつて誌されたことを証詞します。そして神の御手に使われてこれ等が世に現われる仲介となつたジョセフ・スミスは真正に権能を受けた末日の予言者でありました。彼の行った業は

信仰と証詞

真の幸福、御恵みを得た喜び

人の力ではなく正に神業であり、私は彼の奉仕と殉教に対して深い尊敬と感謝を捧げます。私はまた生きて在す父なる神が子供である全人類の救と幸福のために永遠の福音を世に与え給い、復活した救主キリストと共にジョセフ・スミスに現われて末日の世に福音を回復され、神の国とその権能を回復されたことを知って喜んで居ります。主の御恵みによりこの証詞をお読みになる方が福音の真理を覚ることが出来ますよう祈りつつ、すべてを主の御名によって証詞します。アーメン

十五節に赤く印がしてあり、それを読んでいる時に思った事が夢になったことに気がつきました。それで私は直ぐ何も言わず長老にお願い致しました。長老は心よくすぐ返事をして下さいましたので、私の心は幸福と喜びに満され感謝の心で一杯になりました。按手礼をいただいた時なご一層私は再び神様の尊い御恵みをうけ最大の幸福感を与えられました事をすべて神の恵みと導きの賜物と心より感謝致しております。

私達全人類の救主イエスを信仰して行く事によって、永遠に渴く事のない聖き生命と共に真の幸福が待ち受けているのであります。「凡て勞する者、重荷を負う者、我に來たれ、我汝らを休ません」

とは多くの罪の重荷を負い、正しい救いを得ようと努力する人間には無二の言葉でもあると思ひます。

會員となつた時の心は如何なる物にもまさり、金銭的に得られない一つの尊い宝を持つ事によって非常な幸福感に浸っていました。

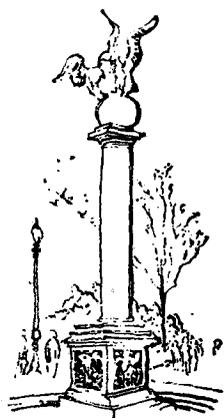
小樽 石尾 つる

私は昨年春から私の家庭内及び私の心が悪靈に捕えられ、病になやまされ、私の行いや信仰が義人にふさわしいか、真理に沿っていないのではないかとなやみました。そして一日心より悔い改め神にお祈り致しました。

九月十六日夢を見ました。それが病める人の枕頭に多くの宣教師が集りお祈りして「アーメン」という声に私は目がさめました。その時神が私に新しい強い力と恵みを下さったのではないかと心に思い、聖書を出して色々な聖句を見ているうちにヤコブ書五章十四

ヨブが正義の生涯を送っていたが、一たびサタンの誘惑に掛かると一朝にして凡ての富を失い、また愛する十人の子も一度に失い、彼自身も重き病に取りつかれ、妻さえもサタンのとりことなつたのであります。最後にヨブは神自ら大風の中より言をおかけになり、神御自身の能力と智恵を啓示し給うた事によってヨブの心も神の祝福を回復することが出来、幸福感に満ちたのであります。ですからヨブの受けた大いなる神の恵みと祝福は今日も変わらずに私達の生活の上にある事を強く憶えるのであります。

生ける救主こそ私達の心の休息の場であり、真の幸福の源であります。アーメン



モルモン経物語

エマ・マー・ピーターソン著*渡部正雄訳

才四十章

大(アルマ書才十八章)

アメリカのインディアンたちは神を大靈と呼んでいます。多くの西洋の探險家が彼等の間を旅してその事を知りました。丁度ユタの開拓者が山の谷間に来てインディアンたちと仲好くなつて知つたと同様に。

此の神を大靈と呼ぶことは長い間広くインディアン人の習慣となつていました。昔のアメリカでもレーマン人等は主なる神さまを此のように言っていました。

ラモーナイ王はその僕からアンモンが如何に羊をその敵から守つたか、また如何に悪人共が彼を傷つけることが出来なかつたかを聞いて「確にこれは人力以上だ、見よ、これは大靈ではなからうか」と言いました。

彼はアンモンは彼等の間に来た主なる神さまであつたと思ひました。

彼の僕は答えて「彼が大靈であるかどうか私達は知りません。けれども彼が王の敵によつて殺されない事、また彼が私等と共に居る時は彼の技倆と大なる力により誰

も王の羊の群を追散らすことは出来ないことは確かであります。ですから私達は彼が王の味方であることも知つて居ります。おう！王様、私達は誰も彼を殺す事が出来ないことを知つて居ります。そして私達は、そのような大きな力を持つて居るとは信じられません」と云いました。

王は僕の云うのを聞いて「今私はそれが大靈であることを知つた。彼は私がお前にお前の兄弟達を殺したと同様にお前達を殺すことのないようにお前達の生命を救う為に今降りて来たのであろう。これは正に我々の先祖が云うていたところの大靈である」と云いました。

ラモーナイ王は彼の僕の多くを彼等が王の羊群を見守る事が出来なかつた故を以て殺した事を大変恐れました。

彼はこの事に関し大靈から罰せられるのではないかと案じました。もう一度僕に向つて彼は問ねました。「このような大力のある者は今どこに居るか？」と。

彼等は王に彼は外で馬を飼つて居ると告げました。王は僕等に羊をつれて水たまりに行かせる前に彼等に馬車を用意する愛馬を飼う

ように告げたのでした。その馬車はニーファイの地に於てレーマン人によつて催される宴会に出席する為に使うのでした。全レーマン人の王であるラモーナイ王の父親が招待した宴会でありました。

ラモーナイはアンモンが外で馬を飼つて此の旅への用意をして居ると聞いてその忠実さに更に驚ろきました。

そして彼は「まことにわが僕たちの中にいまだかつてこの男のように忠実な者はなかつた。この男はよくわが命令を記憶してことごとくこれを行う。われはこの人が必ず大靈であることを知つて居る。よつてかれをわが前に召したいと思つて居るが思い切つてそれが出来ない」と言いました。

アンモンは馬と馬車の仕事を終え王に出発の準備が出来たと言ひに宮殿に來ました。彼が部屋の中に入つた時王が奇妙な顔色をしていましたので彼はまた出ました。

僕の一人が彼の処に走つて行つて「ラバナよ、王が何か貴方に話があるとの事である」と云ひました。

ラバナと言う言葉は「力ある人」又は「偉大なる王」と云う意味で

あります。此の僕はアンモンが若し大靈でなければ或偉大な人であると信じラバナと呼んで彼に敬意を表したのでした。

アンモンは宮殿に戻って王に「何か御用でございますか？」と問

ねました。王はまだ恐れ一時間も語る事が出来ない程アンモンを恐れて居りました。彼はアンモンに何と云うてよいのかわかりませんでした。

暫らくしてアンモンはまた王に何か御用ですかと問ねましたが王は尚何も語る事が出来ませんでした。主なる神さまのみたまによつてアンモンは王の心の内をよみとる事が出来ましたので彼は「貴方は私が貴方の僕や羊の群を守り石投器と剣で彼等の同胞七人を殺し貴方の羊の群や僕を守る為他の者の腕を切落した事を聞いて驚いたのではありませんか、どうして貴方はそのようなにびっくりなさるのですか、御覧なさい。私は単なる人であり貴方の僕であります。ですが何事でも貴方が正しい事を望まれるなら私は致します」と云いました。王はこれを聞いてアンモンが彼の心の内を見抜いたのを知って更に驚きました。そこで王はやっと

口を開き語り始めました。最初に云った言葉は「お前は誰だ。お前はすべてを知っている大靈か」でありました。

アンモンは答えて「私は違ひます」と云いました。

そこで王は問ねました。「汝はどうしてわが心に思っていることを知ることが出来るか。思い切つて言つてよいかからこれをわれに話してくれ、汝はどのような力があるからわが羊の群を散らした同国人を殺したり、またはその腕を切り落したか、どうかこれを教えてくれ、汝がもしこれらのことを教えてくれるならば、何でも欲しいものがあるならば必要があるならばわが軍隊を以て汝を保護してやる。われは汝が一人でもわが全軍よりも強いことを知っているが、

しかし汝の欲しいものは何でもこれをやる」と。

アンモンは賢い人でした。彼が彼が持っている力は神より来たものである事を知っていました。またただ主なる神さまを通じてのみ

彼が今迄になした事が出来たのである事をも知っていました。彼はまた今ラモーナイ王がこのような事を質問するのも主なる神さまの祝福によるものであることをも知

つて居りました。

彼は王に彼が教える事を信じますかと問ねました。王は「よしわれは汝の言うことはみな信ずる」と云いました。

アンモンはそこで問ねました。「貴方は神の存在を信じますか」と。王は云いました「われはそれが何のことだかわからない」と。そこでアンモンは云いました「貴方は大靈の存在を信じますか」



アンモン・ラモーナイ王とその父

と。王は言いました「はい」と。

アンモンは神は大靈であり彼は全世界とその内に住むすべての物をお造りになったと説明しました。彼は王に神は聖い便と共に天に

ように地上に倒れ伏しました。彼の僕等は彼を抱えて床の上に横たえました。彼はそこで二日二晩意識不明となり彼の妻子は彼が死んだと思うて悲しみました。

才四十一章

大なる改宗
(アルマ書 才十九章)

ラモーナイはそこで問ねました。「汝は神からつかわされたか」と。アンモンは彼に「そうです。けれども私は主なる神さまのみたまの力によって祝福された単なる人間に過ぎません」と告げました。

ラモーナイの民は王が死んだと思いました。彼等は王を悼み墓をこしらえて葬式の準備をしました。后は王の葬式を許す前にアンモンに語り度いと頼みました。彼女はアンモンのなした素晴らしい業を聞いていきましたので彼の処に人を呼びにやらせました。

そこで彼はラモーナイにリーヘイの事またそのアメリカへの長い旅の事に就て語りました。彼は王にレーマン及びレミユエル、またイシメルの息子達の真理に就て語りました。それから彼は救主、イエス・キリストが間もなくその民を救う為世に来るであろうことに就て語りました。

王はアンモンの云うた事を信じ主なる神さまに祈り始め「主よ、憐みを垂れたまえ。ニーファイの民を深く憐みたまえ」と云いました。此のお祈りを終えると彼はぐったりとなつてあたかも死人の

主なる神さまの力の下にあることを知っていました。そして暗い彼の心は取除かれその代りに聖靈の光が彼の上に来たりつゝあることをも知っていました。

彼の心は喜びに充たされました。こう云つた後王は再び主のみたまにあつと云つた後彼の床の上に倒れ伏して無意識状態となりました。

后は答えて「私はお前の言葉と我が僕等の言葉の外には何の証拠もないがお前の言葉通りになると信ずる」と云いました。

アンモンは後のこの言葉を聞いて喜びました。彼は「汝は信仰が堅固であるから幸いである。女よ、よく言っておく。今日までニーファイのすべての民の中にもこのよ

うな篤い信仰を見たことがない」と云いました。

アンモンの云うた事を信じながら后は彼女の夫の起上がるのを待ちました。彼女は彼の傍で翌日迄見守つて居りましたがアンモンの云うた通り王は起上がりました。

彼は眼を開けて傍の妻を見、その手をさしのべて言いました。「神の御名に感謝し奉る。妻よ汝はさいわいである。見よ、汝が生きていことが確であると同じく、われがわが頼み主を見たことは確である。頼み主はこの世に降りたもうて女から生れ、その御名を信ずる一切の人々を頼み救いたもう」と。

彼の心は喜びに充たされました。こう云つた後王は再び主のみたまにあつと云つた後彼の床の上に倒れ伏して無意識状態となりました。

アンモンは王と后にもたらされた改宗を喜び感謝しました。彼はひざまづいて主なる神さまが彼の祈りに答えてレーマン人等に信仰をもたらしした事を感謝して祈りました。すると主なる神さまのみたまは彼にも降り彼もその大なる力にあつと云つた後王と后と共に無意識となつて倒れ伏しました。

后の僕の一で女で永い間主なる神さまを信じている者が居りました。彼女はその父親に与えられた素晴らしい示現により改宗して

いたのであります。彼女は王や后やアンモンや其他の僕達に起った事を見て主なる神さまの力がそれをもたらした事を知りました。彼女は町の人々が此の素晴らしい事を見たら主なる神さまに帰依するかも知れないと思ひました。

外に走り出た彼女はあたりに居るすべての人々に宮殿に来るよう頼みました。多くの者が来て其処に横わっている人を立ったまゝ見守って居りました。けれども人々にはわかりませんでした。或者は王がニーファイ人であるアンモンを町の中に住むことを許したので大きな悪魔が宮殿の中に入って来たのだと言ひました。

他の者はまた王がその羊群を敵から守る事が出来なかつた理由で多くの僕等を殺した報いが来たのだと言ひました。

其処に来た者の中には水たまりでアンモンが羊の群を追散らした敵と戦つたのを見た人々が居ました。殺された者の兄弟の一人が入つて来ました。彼がアンモンが誰にも守られずにそこに横たわっているのを見てこれは復しゆうに彼を殺すよい機会だと思ひました。彼は剣を抜いてアンモンが横たわ

っている処に進みました。彼が腕を振上げてアンモンを殺そうとした時主なる神さまが彼を打ちましたので彼は倒れ死んでしまいました。

人々はこれを見た時、大要驚き或者はアンモンが大靈であると信じました。また他の者は彼は大靈によつて遣わされたのだと云ひました。彼等の内、悪い者はこのように云う人々を非難してアンモンはレーマン人を苦しめる為にニーファイ人から遣わされた怪物であると云ひました。けれども義人達はアンモンは彼等の多くの罪を罰する為に大靈より遣わされたのだと信じました。

この事で口論が始まり大要激しくなつて来ました。人々を呼び集めた女は失望しました。何故なら彼女は彼等が王やその他主なる神さまのみたまにあつとうされて横たわっている人々を見たら改宗するであらうと思つたからであります。

泣きながら彼女は後の横わっている部屋に行きました。彼女はひざまづいて后を地上より起す事が出来ると思つて后の手をとりました。

后は目をさまして立上がり大声で「おそろしい地獄からわれを救いたまへる恵み深きイエスよ、恵み深き神よ、この民を憐みたまへ」と云ひました。

彼女はラモーナイ王の方を向いてその手をとりました。すると彼も起上がり宮殿の中で彼の民が口論しているのを見て彼は彼等をしかり、アンモンが教えた事を彼等に告げました。

多くの者が王の言つた事を信じて改宗しました。けれども他の一部の者は信じませんでした。彼等は向きを変えて宮殿を去って行きました。

アンモンは主なる神さまのみたまに充たされている間にその心の義に向かつた僕達と同様に今や立上がりました。

このようにして祝福された者は出て行つて町の人々を教えました。多くの者がまた信じました。

アンモンは信じた者は今バプテマを受けねばならぬことを知つていました。彼は彼等をつれて水の中に行き彼等にバプテスマを施しました。そこで彼は、彼等の間に教会の支部を組織し主なる神さま

は會員達を祝福しました。

才四十一一章

アンモンは彼の兄弟を救う

(アルマ書、才二十章)

ラモーナイ王はその父親がアン

モンに逢うことを希望しました。彼の父親は全レーマン人の支配者でありました。ラモーナイやその他の人がそれぞれ一部分の土地を治めて居りました。けれども彼等は彼等全部を支配する老王に従わねばなりませんでした。

ラモーナイはアンモンと一緒に彼の父親の住んでいるニーファイ市に行こうと頼みました。けれども主なる神さまのお声がアンモンに下つて老王が彼を殺そうとするから行つてはならないとお告げになりました。そしてなおアンモンの兄弟が或悪いレーマン人に捕えられて居ると告げられました。アンモンは主なる神さまにそこに行つて彼等を救うように言われました。

これを聞いたアンモンはラモーナイの処に行つて彼が老王に逢いにニーファイの地に行くことが出来ず、その代り彼の兄弟等が牢に入られているミドーナイの地に行

って彼等を救ってやらねばならぬ
いと云いました。

ラモーナイは「われは汝が主の
能力で何事でもできることを知っ
ているが、このたびわれは汝と一
しよにミドーナの地へ行こう。

ミドーナの地の王はアンテオム
ノと言つてわが友である。それ故
われは自らミドーナの地へ行き、
汝の兄弟たちを牢から出すようそ
の王に勧めよう」と云いました。

そしてラモーナイはアンモンに
問ねました。「しかし汝はその兄
弟たちが牢に入れられて居ること
を誰から聞いたのか」と問いまし
た。

アンモンは「神の外に誰も告げ
ることは出来ない」と告げて神は「
汝の兄弟たちはミドーナの獄に
わながれて居る故、行ってこれを
解きて放て」と私に命令なされた
と云いました。

ラモーナイはこれを聞いて僕等
を遣わして馬と車を用意させてか
らアンモンに向い「さあ、われは
汝と一しよにミドーナの地へ行
き、汝の兄弟たちを牢から出すよ
うに、その王にとりなしをしよう
と云いました。

直ちにアンモンとラモーナイは

旅立ちました。途中で彼等は全国
の王であるラモーナイの父親に逢
いました。彼等は車を止めました。
そこで老王は彼の息子に何故彼が
準備した宴会に来なかつたかと問
ねました。

父はアンモンがニーフアイ人で
あるのを見て怒つてラモーナイに
向つて「汝は此のニーフアイ人と
何処へ行くのだ」と問ねました。
ラモーナイは父親をおこらせる

のを恐れましたがアンモンが来て
からの事、すべてを彼に告げた方
がよいと感じ話しました。老王は
それを聞いて怒りました。更にラ
モーナイが彼に自分達は今ミド
ーナの地にアンモンの兄弟等を救
いに行くところだと告げると一層
怒つて言いました。

「ラモーナイよ。汝は偽りを言
う者の子孫であるニーフアイ人を
救おうとして行くことを知らない
のか。その偽りを言う者はわれら
の先祖の物を取つたが今やその子
孫は狡かつと詐欺とを以てわれら
を欺き、再びわれらの持物を取ろ
うとしてわが國にきたのである。」

老王はレーマン人達が永い間、
彼等の子孫に教えた或いつわりを

告げました。彼は怒つて息子ラモ
ーナに剣を抜いてアンモンを殺
し彼と共に彼の地に戻るように言
いました。

ラモーナイは父親に向い「私は
アンモンを殺しません。また私は
インメル地のにも戻りません、私
はアンモンの兄弟等を救う為ミド
ーナの地に行きます。私は彼等
が義人であり真の神の聖なる予言
者であることを知つて居ますから」
と云いました。

これを聞いた父親はその剣を抜
いてラモーナイを殺そうとしまし
た。けれどもアンモンは老王を制
止して「見よ、汝は自分の子を殺
してはならない。汝のこの息子は
罪無い者であるから、汝がもしも
殺すならばその血は仇を返して下
さるよう自分の神に地の中から叫
んで歎願するのである。そうした
ら汝の身も霊もおそらく亡びてし
まう。」と云いました。

老王は「われはわが子を殺すな
らば、罪なき人の血を流すことに
なるを知る。しかし汝こそわが子
を亡ぼそうとした者である」と。
こう云つてラモーナイの父親は

剣を振上げてアンモンを殺そうと
しましたがアンモンは自分の剣を

抜いて彼と戦いました。彼は王の
腕を打つて利かなくなり王は戦うこ
とが出来なくなりました。王は今
や自分を防ぐ事が出来ずアンモン
が若し望むなら彼を殺す事が出来
るのを見て生命を許してくれるよ
うに頼み始めました。

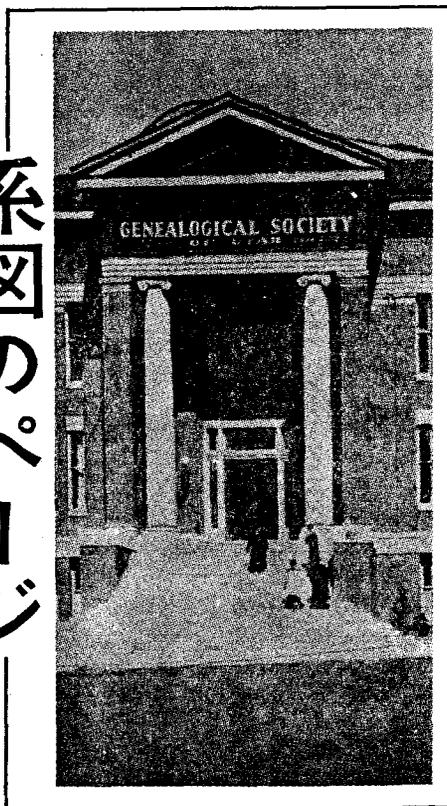
アンモンはその剣を振上げて「
もしも汝が私の兄弟たちの出獄を
許さないなら必ず汝をたたき切る
と云いました。

アンモンは老王がラモーナイが
ニーフアイ人を連れて来て、彼の
王位を奪つてしまふのではないか
と恐れてラモーナイを傷つけるの
ではなからうかと思つて王が今憐
みを乞うている時にラモーナイを
守ることを誓わせようと決めまし
た。

彼は「汝がもしも私の兄弟たち
を牢屋から出すこととつづいてラ
モーナイにその國を治めることを
許し、またラモーナイに対して立
腹せず、何事でもその思うところ
をさせると言う誓約をするならば

私は汝の命を助ける。そうでなけ
れば、地に打倒す」と云いました。
王は喜びました。彼は自分の生
命が救われたのを喜んだばかりで
なくアンモンがそのようにラ

✳



系図のページ

報告書

神殿並に系図
委員会からの
四半期報告書
には次の項目

パプテスマ及び

結び固めは報告しない

を必要とする。

ワールド部及びステーク部の書記は各自のワールド部及びステーク部の会員が神殿の中で受けたパプテスマ及び結び固めの儀式の実際の数を報告しなくてもよい。この資料は神殿の記録係によって系図協会の総務室に提供される。神殿の登録簿はこの整理に応じて改訂されている。

エンダウメント

ワールド部及びステーク部双方の

- 一、当該四半期間内にワールド部又はステーク部に於て執行されたエンダウメントの総数
- 二、同上期間内にステーク部の神権者及び、女子会員が神殿に列席した個々の記録(人数)

報告書の一部にエンダウメントと見出しされている処は四半期内にワールド部内でエンダウメントの儀式を受けた総数とステーク部内の全ワールド部の概括した総計を示す。才二番目の欄は四半期内にワー

ード部又はステーク部から実際に参加した数を示す。この場合各人はたとえ十回或は二十回も儀式を受けていても只一回しか数えない。出席の欄の一番下に「本年度の

総計」の枠が設けてあるがここには本年度内にエンダウメントの儀式に参加した人数を記録するようになっていいる。毎月の十日に最後の四半期報告書が届いた時前年度内に身代りのエンダウメントの儀式を受ける目的を以て神殿に列席した人の総数が示されるのである。

この情報は神殿の仕事を進捗する為にそれぞれ召された持場に於て責任を持つ委員会、監督会、ステーク部長会、及び教会幹部が彼等のワールド部又はステーク部がその年度内に神殿に列席した人数の割合を決定する援けとなす為のものである。前述した通りこれに包含される人はたとえその人が十二ヶ月の間に何度もエンダウメントの儀式を受けていても一回だけしか数えないのである。この列席人数の記録は教会の各ワールド部或はステーク部の神殿活動に対する関心の尺度として非常に重要なのである。

※モーナイを愛しているのを喜びました。彼は即座にアンモンの要求を入れたラモーナイの自主権を認めて「私はもう彼に指図しません」と云いました。老王はアンモンにもっと信仰に就て教えを乞いました。アンモンとラモーナイはミドーナイの地に向って急がねばなりませんでした。

彼等がそこに着いた時ラモーナイはその友人である王の処に行つてアンモンの兄弟達を釈放させました。宣教師達は大変苦しめられて居り出獄した時は着物も着て居りませんでした。彼等は大変飢えかわきまた彼等を縛っていた繩の為彼等のひふはひどく痛められて居りました。アンモンは彼等の受けた苦難を悲しみました。

彼の兄弟達は悪いレーマン人達の為にそのようなひどい迫害に逢いましたが彼等は辛抱強くあくまでも悪人共の言うことを聞きませんでした。彼等は福音の為にこれ等の迫害を忍んでいふことを知っていました。ですから決して不平をこぼすような事はありませんでした。

大平洋に於ける神殿

十二使徒会補助



それは暗い、だるい、うな、秋の

ゴールドン・B・ヒンクレイ

も見られなかった。市街地の燈光から遠く離れ唯一の自身の光を放って、それは丁度此の世の物ならぬ別世界の観があった。

神殿は道路より五十八呎、高い敷地の上に建っていた。磨かれた青銅の塔は地上一五七フィートに達し道路上より二一五呎の高さにそびえていた。

南十字星の下に東北十二度の方向を向いてツヒカラメアの崗の上に堂々と建っている、この神殿は既にニュージランドの副期的な名所となつたのである。東の方には豊かな緑のゆるやかな岡が丁度、美しく愛らしき英国の田園地を忍ばせしめる。南方はすぐれた牧草地で其処には肥えた羊が放牧されていた。神殿のすぐ後方には神殿の管理会長の家がある。

献堂式の日には約束通り始められた。四月二十日、日曜日の最初の集會に伝道部長、地方部長、支部長、神権委員會長たちが集つた。六百人の人とその妻たちが神殿の中に着席したその光景は輝かしき

大部分の訪問者が初めて夜の神殿をながめる事が出来た。それは空中に浮き上がっているかのようであった。照明された神殿の門に導かれる階段の外にはその週出に何

将来を象徴するものであった。ここには試れんに堪え忠実なることを証明した指導者たちが居た。そしてその人たちの顔を見た人は誰でも大平洋に於ける教会は強力な有能な手の内にあり輝かしい将来を約束されていると感じたであろう。

パーレイ・ビー・プラットの作つた不滅の賛美歌「回復」の聖唱を以て始められた。
夜は明け 闇は逃げ去れり
見よ、シオンの岡は展開せり
さんらんたるれい明は今此の世に訪れたり

それは予言的なそして忘れられぬ朝であった。
「神殿の建設者たち」は午後後の集會に列席した。この同じ場所では彼等は数年間コンクリート、固め、のこひき、ハンマー打ち、砂磨き、ペイント塗りをして来たのであった。今彼等は静かに入って敬虔な念を以て着席した。この聖なる建物は彼等の手によって造られたのであった。彼等の予言者の祈りとホザナの歌を以て彼等は今その建物を主に捧げたのであった。

月曜日の朝、オーストラリアの

聖徒たちは父親も、母親も、子供達も皆集つた。或人は彼の車や家具を売ってサンフランシスコからニューヨーク迄より遠い道程を旅して来たのであった。このような地上の物がここで得られる祝福に比べて果してどれだけの価値があるであろうか、財産を費しただけの価値があったのであろうか、然りすべての六ペンス銀貨がその価値を持った。若し更に九千運行かねばならなかったとしてもその価値はあつたであらう。

その午後にはサモアから来た聖徒たちに与えられた。お祈りは大きな、かっ色のひふで白い、ラヴァラヴァを着た人によって捧げられた。彼の英語は完璧でその表現は靈感にあふれていた。

他の一人がマツケイ大管長の通訳と呼ばれた。この人もまた白いラヴァラヴァと白いシャツそれにきちっとしたネクタイをして足には靴をはいていなかった。彼は大管長の側に立って通訳として珍らしい程の巧みさを以て指導者の言葉その民の言葉で語つた。

翌朝友好的な素晴らしいトンガの民が集つた。彼等の表情には親切さがにじみ出て居り、その天性

的な信賴感は誰でも彼等に途う時ここに確かに主の子供たちが居ると言うことを感ずるであろう。次いで火曜日の午後と水曜日にニュージールランドの民の為に集會が催された。

マオリ人とヨーロッパ人が混合してゐた。その顔にいれずみし永年の労働でしわのよった手をしたマオリの老婦人が肩かけをした青い眼の美しいひふをした英國の都會の婦人らしい人と共に肩を並べて坐つた。再びそこに何か予言的

なものがあつた。ここにイスラエル家の二つの大きな血統があつた。ブリテン諸島からのエフライムの子孫及び大平洋諸島からのリーハイの子孫。

この八つの集會でマツケイ大管長は語り且つ献堂の祈りを捧げた。各集會毎に選ばれた聖歌隊が「主の家は至まれり」「主の家は完成せり」を歌つた。「この家を祝福したまえ」の独唱があり独唱を除いてその外の歌はみな伴奏なしで行われた。

質問事項の解明

一、西宮支部系図委員会会長植村茂夫兄弟は八月二十八日日本部を訪れて支部系図委員会の活動状況を詳細に報告し、またいろいろの点に就て共に研究した。その時の質問を左記致します。

〔問〕 個人記録の結婚の欄は神殿の結婚か、又は神殿外の結婚か、
〔答〕 神殿の結婚を受ける前に神殿外で結婚した場合は神殿外の結婚を記し結び

〔問〕 解任された日
〔答〕 前項の下の欄の特別な任命は教会外的一般社会上の事をも含むか

〔答〕 教会内のみ、教会外の事は右側の欄に記入する
二、各支部系図委員会よりの質問にお答えする

〔東京中央〕 戸籍謄本上では結婚の日附は届出た日附となつてゐるが之を結婚の日附とするか
〔答〕 実際の結婚日が判明してゐる場合はその日を結婚日とする。判明してゐない場合は届出の日を記入し且つこれが届出の日であることを明記し、後日補足的情報が発見された時は、これを調整するようになすべきである。

〔横浜〕 先祖に就て改名のみが判明し実名が判名しない時これを用いるか
〔答〕 用いる。そして改名であることを明記する
先祖のむこ養子の結び固めは血族になるが養父母になるか
〔問〕 原則として血族が判明しないような特別な場合異例として養父母となる
三、岡町支部系図委員会会長阪本弘兄弟の質問にお答えする

〔問〕

私生児の家族の記録のつけ方はどうしますか、この場合父親がはっきりしてゐて認知してゐる場合、また父親が不明の場合のつけ方について
〔答〕 父親がはっきりしてゐる場合、認知してゐるといふにかかわらず實際の父と母を夫と妻の欄に、その私生児を子の欄に記入し、結婚の欄に Not married と記す。

〔問〕

父親不明の時は母のみ妻の欄に記す
法律上認められない女性に生ませた子供を自分の子として入籍した場合、正妻でない人とその子の家族の記録のつけ方はどうしますか
〔答〕 実母（正妻でない）を妻の欄に書いて、その子の為別に家族の記録を作る。若しその子が正妻に結び固められることを望む場合は養子の場合と同様に系図協会の許可を待つて正妻を妻とする家族

〔答〕

「問」

族の記録に入れられる
A家は後継がないので知
人のBさんを見人とし
てその家へ入れました。
しかし後年実子が大きく
なったので後見人はその
家より分家しました。分
家した家の子孫が我々教
会員であったら家系は当
然分家した後見人Bさん

(答)

にさかのぼる訳でしよ
うかA家の家族の記録もつ
けるべきでしょうか
A家の家族の記録を作成
しても差支えないがB氏
はA家の家族代表者と
なることが出来ず従って
A家の家族に信者が出来
る迄は神殿の儀式は行わ
れない。

ワーク・ナイト

系図委員たちに与えられた最大
なる任務の一つであり記録作成の
推進力であるホーム・テイーチン
グは、既に東京北支部及び東京中
央支部等に於て着手され相当の効
果を挙げているが、横浜支部に於
ても九月二十日、本伝道部の最初
の姉妹としてバプテスマを受けら
れ既に五十四年の信仰生活を続け
て居られる鈴木なみ姉妹のお宅か
ら開始した。鈴木支部長及び支部
系図委員長加藤俊大兄弟及び才
二副委員長長竹下姉妹と私と四人
で訪問した。鈴木姉妹は高血圧で
床について居られたが非常に喜ば
れて床の上で起上り、丁寧に委員

の質問に答えられ約一時間のワ
ーク・ナイトで鈴木なみ姉妹の御
家族と不完全ながらお父さんの分
と二枚のファミリー・グループ・シ
ートを作成することが出来ました。
その間主のみたまが私共の上に豊
かにあり一同が真に尊いお仕事に
たずさわっている喜びを分かち合
いに何十年の信仰生活に生きぬか
れたなみ姉妹の上のみたまの働ら
きがあって私共もびっくりする程
多くの点にはっきりした記憶を示
された事にはほんとうに感謝しま
した。

いけませんと注意されていました
のはこの仕事の事でしたと言われ
た時、私共兄弟姉妹も同様の警告
を常に主から受けている事を反省
させられました。
最後に加藤兄弟が五十数年間の
信仰生活を通じて何か私共に参考
になることを話して下さいません
かと言われた時なみ姉妹は「只感
謝の一言のみであり、永年の間に
いろいろなこと逢い続けて娘を
失い、一人息子を戦場に捧げたこ
ともありました。常に感謝の気持
を忘れませんでした」とヨブを忍
ばせるような言葉に私たちはパウ
ロのテサロニケ人に送った言葉を
再び胸に刻み込みました。(テサ
ロニケ前書五章十六節―十八節)
同じ此の日の午後、エライソン
兄弟がヒーバー・J・グラント大
管長が一九〇一年九月一日、日本
の地を献納し祈りを捧げたさぎ山
を見たいと言われるので私は鈴木
なみ姉妹の宅に立寄り、なみ姉妹
は不自由の身を強いて私も十数年
間行っていないので一緒に見たい
と案内して下さい、エライソン姉
妹(前マース伝道部長さんのお嬢
さん)は「私はちえ子(エライソ
ン姉妹のお子さん 四才)の年の

頃から鈴木姉妹のことをよくお父
さんから聞いていましたがこうし
て今一諸にさぎ山にドライブ出来
るのはほんとうに夢のようだ」と
喜ばれ、今はすっかりモダンナ米
人住宅が軒をつらね献納の時の写
真に見られるような野生の森の面
影は更になく、ただ変らぬ太平洋
の波の音があの時グラント大管長
が「此の地より北方の森の中にや
がて神殿が建つであろう」と言わ
れたと言うその言葉の実現する日
が近づいて来ているのを告げてい
るかのようであった。(渡部)



日本伝道部の回顧

高木富五郎

(その四)

一九二二年の晩春にアメリカから帰ってからは講演行脚に福井県の父母の郷里へ行ったり、職場が変わったり、住所が移動したりしたため教会の方は無沙汰勝ちでしたが、一九二三年(大正十二年)九月の大震災の頃、私は代々幡の初臺駅近くに引越していました。ところが日本伝道部も牛込榮王寺町から新宿駅裏の柏木へ移転しました。伝道部長はロイド・O・アイビー長老でしたが、私はその本部の建物を借りるためにアイビー部長とともに飯倉の家主の宅を訪ねて保証人として署名捺印をしたものでした。

頃から毎年のように新聞社の方から満州、支那各地へ特派員として出かけることが多くなつたので教会への出席率は薄くなり、アメリカにおける排日移民法案が上院院論議の的となり、日本の各層もそれに非常に刺戟される傾向が強くなり、私たちも早稲田大学講堂などで「アメリカの排日空気が」という論題で演説することが屢々ありました。



(左より桂兄弟、カウリー長老、長尾姉妹)

このように日米関係が政治的に円満を欠くようになり、ひいてはわが教会に対する或程度の迫害が激しくなりつつあるのを感じられるようになりました。それやこれやで一九二四年八月、末日としてかく然としたものです。帰国後に奈良兄弟に連絡したところ、(兄弟)奈良富士哉、白石源吉、佐藤森三郎、望月謙太郎、松本昌信の厚い奈良兄弟はこの悲境から兄弟姉妹を救う計画を樹て、伝道部の閉鎖された後の日本の兄弟姉妹の集會する機会を彼の神権によつて熱心に努力せられたこととは今でも感謝に堪えないことです。這間の事情は奈良兄弟の執筆された「日本伝道部の回顧」に載せられた通りです。

伝道部閉鎖当時は私は支那へ出張中であつたためロバートソン伝道部長とは親しく話す機会がなく、私が支那から帰つて来た時は既に教会もなく、宣教師たちも一人も居りませんでした。一九〇一年から一九二四年までの伝道の成果は、一六〇余名の會員が、来るべき次の機会まで福音伝道の礎臺を守りとおさねばならないことでした。その會員で今日健在な兄弟姉妹は私の知る限り次の方々です。



熊谷姉妹(右)とそのおいとめい達 柳田
(左)高木兄弟(中) 一札幌月報にて—

助、粟山長次郎、中川工司、小野
議次、桂鶴一、野々垣すけとも、
(姉妹)鈴木なみ、長尾栄子、西
郷正菊、児玉琴枝、熊谷たま乃、
渡辺田鶴子、石田シマ、奈良源子、
(当時は求道者)、松本睦子(当
時は求道者)

モルモンの亜流をくんで私達兄
弟姉妹は開拓者精神に導かれて海
外へ出かけて活躍する人が少なく
ありません。前回で述べた札幌の
塩木千代子姉妹は北米オレゴン州
へ行きまし、堀切音文兄弟は
南洋へ行かれたが其の後の消息は
判りません。粟山兄弟はソルト・
更に北京で大々的にカルテックス
石油会社の代理店を開いていまし
たが終戦で引揚げて来ました。

長尾姉妹も満州に居られ、昭和
六年には私が満州へ特派された機
会に電報で打合せて、四平街の駅
で私は列車の中から、長尾姉妹は
息子さんをつれてホームで、まこ
とに十数年ぶりの再会をしたこと
があります。また奈良兄弟とは北
京において同時に生活したのです
が遂に会うことなくして奈良兄弟
が日本へ帰国したという記憶があ
ります。少数の会員が斯くも多数
海外へ出かけたということは矢張

り開拓者精神の影響でありましよ
うか。

レック
南で州
立ユタ
大学を
卒業さ
れた。
佐藤森
三郎兄
弟は最
初ハル
ピンで
貿易商
を営み、
次いで
奉天へ、
信仰に生き、福音の掟に忠実に奉
仕して居られる実生活を拝見して
「主はまことに生きてまします」
との証しを新たにすることが出来
ました。熊谷姉妹の辺幅を飾らぬ
愛情こそ「神の愛」に通ずるもの
として深く感謝したことでした。
思い出は延々としてつきないか
ら此の辺で打ち切りますが、一九
二四年以来日本から消え失せた伝
道部が必ず復活するであろうこと
は私たち一同が確信して居りまし
た。しかしその長い間に私たち古
い信者はちりぢりばらばらに四方
へ散ってしまつたので、その後の
消息がハッキリしませんでした。

その一部分は奈良兄弟が不断の努
力で連絡していたので判明してい
たようですが全部とは申されませ
んでした。

日本伝道部の復活の機運は一九
四五年十一月、東京に駐留された
海軍中佐クリソード兄弟によつて
もたらされ、次いで一九四八年三
月クリソード長老が日本伝道部長
に任命されて来朝したことによつ
て閉鎖されていた「日本伝道部」
が二十四年ぶりで再開されること
になったのでした。再開されるま
では奈良兄弟の知らせを得て、丸の
内の明治生命館に開かれた進駐軍
の日曜学校へ出席させてもらった
ものでした。

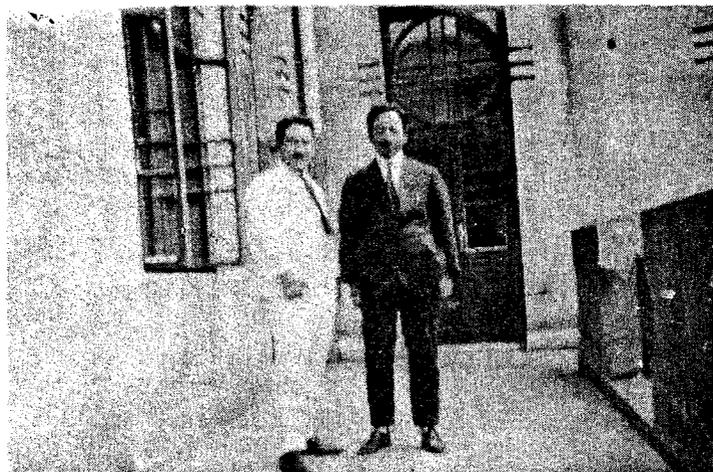
の熱心な伝道は涙まじしいほどの努力でした。

その頃札幌支部がクリソード部長によって開設され、熊谷姉妹を初め惣万、小野、佐藤三兄弟がアソドラス、岩浅両兄弟によって導かれたことなどについては後日熊谷姉妹から伺いたいことと思っております。

淀川女子高等学校で開かれた大阪支部も桂兄弟や長尾姉妹などの古い信者がさがきがけとなつて漸次発展しつつあつたようですが、これも古い大阪支部の事どもと共に桂兄弟から物語りを承りたいと思つています。再開当時の大阪支部について当時大阪に在住された長尾姉妹から次のような懐旧談がありました。

私は満州から引揚げて大阪に在住していましたが其の頃「日本伝道部」の再開と大阪支部が設けられたことを知らされて、私の心に大きな光が照らされ急に明るい気持ちになつて大阪公会堂に開催された日曜学校の集會に出席致しました。その時の最初の宣教師はニコラス、吉井両長老でしたが、集會は大きな建物にガランとして集會には適當

な場所ではありませぬ。そこで早速方々探し求めた結果十三駅近くにある淀川女子高校を借り受けることになりました。間もなく本部からニードム・沖



佐藤森三郎兄弟（右）と高木兄弟（1922年長春 ヤマトホテルにて）

感謝し喜び合いました。また宣教師及び求道者が一丸となつて屢々宣教師宅と信者の家で家庭集會を催し誠に平和な楽しい雰囲気をつくることができました。

本両姉妹が来阪され、この四人の宣教師が教養について互いに研究し、大変熱心に布教されたので、各集會とも急速に盛んとなり、私も心から神様に

偉大なるお遣きであるとただただ感謝の外ありません。希くは日本主権が謙遜となり神様の温かき御手にすがり永遠に朽ちざる音ずれの言葉を味われんこ

現在では岡町

支部という立派な集会所も出来、また関西各地

にも支部ができています。これ偏に信者や求道者の努力に對する神様の

とを切望いたします。

「求めよ、さらば見出さん。門をたたけ、さらば開かれん。すべて求むる者は得、尋ねる者は見いだし、門をたたく者は開かるるなり」

私たちの「日本伝道部」は「北部極東伝道部」に統轄されて将来の進歩と発展が約束されています。過去を回顧して将来に想い及ぶとき、われわれモルモン聖徒の使命が極めて重大なることに気づくでしょう。

日本に完全な教会堂が建ち、組織が完備され、神殿が建築されるは何時でしょう。それは決して遠い空漠たる夢ではありません。私たちの信仰が、私たちの行いが、そして私たちの熱意が、一団となつて持続されるならば、近き日に具現されるに違いありません。

かつては僅か百六十余人の信者が今や二千人を突破しました。三千人となり、五千人となり、やがて一万人のモルモンが歌う聖歌隊の楽音を聴く日を求めてこの回顧録を一応結びます。（完）

二ユース欄

西中央地方部秋季大会

南と南中央地方部、十支部が西中央地方部となつて初の大会である。今大会は色々の意味で祝福された大会であつた。

先づ大会開催地方の会員の高い友情を挙げねばならない。兄弟姉妹達は、遠方の支部から参加したくても出来ない人々のために、曝金して旅費を援助したり、ピクニックにお辨当を二人分持参し、また会場から宿舎へのバスを廻して呉れたりしたのであつた。全てこれらは阪神地方の会員の美しい奉仕になるものであつて、会場の骨折等何の何くれとなく行き届いた奉仕に対して、心から感謝を捧げたい。

数年前まで、矢張り中部から九州まで含めた大会が行われた。今度久振りに私達は懐しい兄弟姉妹に逢ふことが出来た。然しその頃比べて何と云う進歩であろう。参集した会員の数、とりわけ神権

者の数に於て、立てられた証の強

さに於て、家族会員がいづれの支部にも見られることに於て、また自らにしみ出る謙遜さと身についた親切さに於て、曾てこのような大会がこの地方部に見られたことはなかつた。

案じた二十二号台風が一日も早く通過して当地方が美しい秋晴れとなつたのも私達にとっては嬉しい恵であつた。然し最も大きい悦びは、伝道部長によつて語られた、真のキリスト教徒、日本の人々が最も素晴らしいキリスト教徒として知り初めたモルモン教徒で、実に私達があると云うことである。

(ピクニック) 二十七日

正午—三時半

六甲山の一角なる諏訪公園で行われ、青空の下、広々と港を見遙かすこの地に集る人約七十人。軽いスポーツ、ゲーム、歌等に楽しい三時間半を過した。

(MIA) 午後七時—九時。

会場の神戸高校体育館は広大で立派である。丁度飛行機で到着されたアンドラス伝道部長を迎えて、

二百人余り、にな川兄弟(三宮)の司会によつて、広い会場一杯に「みのりの舞踏会」を楽しんだ。

(神権会) 二十八日、午前九時—十時。ノーマン長老の司会。農業会館二階。前芝兄弟(三の宮)の若い神権者としての強い証。西

原兄弟(広島)の家庭の神権者としての祈りと、朝三十分間モルモン經典回読の習慣等が語られ、深い感動を与えた。伝道部長を初め、百一人、多数の神権者が集つた部屋に、私共は確にみたまを感じたのであつた。

(扶助協会) 農業会館五階(以下同室)。野田姉妹(金沢)司会。「未婚女性と扶助協会」瀬戸川姉妹(柳井)。「扶助協会の重要性と責任」、北岡姉妹(岡町)。続いて宣教師の佐々木姉妹、野田両姉妹から話があつた。

(一般大会) 十時半—十二時半。司会ノーマン長老。話は、安芸(西宮)、新保(金沢)、伊藤(岡町)、周藤(阿部野)、吉沢(福岡)、柳田(名古屋)の各兄弟が

夫々、「聖典」「良い教師」「会員の伝道」「系図」「教会資金」

「モルモンの家庭と神権」に就き。最後に伝道部長より、モルモン教徒として立派に生活するよう話された。出席者二三五名であつたが、

新しい美しい会場の大半が人々によつて埋められていた。来られぬ人の為にはあろう。テープレコードしている支部もあつた。

(証 会) 一時半—四時。司会片山兄弟(岡町)約四十人が証を述べた。

(指導者会) 四時半—五時四十分。司会、山本兄弟(阿部野)。岡町、西宮、福岡、岡山の各支部の寸劇による模範、「教師」「系図」「成功への秘訣」「宣教師としての働き」を夫々上演した。最後に三宮支部による発表は、夕のファイア・サイドを寸劇によつて紹介、ユニークなものであつた。

(ファイアサイド) 七時—八時半。歯科医師会館。柳井のコーラス。名古屋の二重唱。金沢のお琴。岡町のピアノ独奏。

遠くへ帰る人達のため、夕べの一ときの交歓として計画されたものであつたが、美しく和やかな、誠によい会となつた。特に秋元姉

妹のピアノは、三宮の姉妹達の発
表通り美しいものであった。
以上で秋の大会は終わったが、終

れば直ぐ春の大会が心待たれる思
いである。
(名古屋 柳田藤吉)

バザーの収入で大会出席費獲得

ファイヤ・サイド(九月七日)

(広島 大原 れい子)

午後六時より、系図について、
と題してファイヤ・サイドを持ち
鈴岡姉妹の司会により、三人の兄
弟姉妹の司会により、三人の兄弟
姉妹より立派な話を聞き、各々系
図を調べる事の必要さを深く知る
事が出来ました。

二人の兄弟姉妹

八月九日に井上一枝姉妹、八月三
十日に相良健一兄弟がバプテスマ
を受けられました。

バザー(九月三日)

井上姉妹は過去八年間の長い年
月を求道者として来られ、相良兄

広島扶助協会二ヶ月間の努力が
実り、この日多くの人を集める事
が出来、会員一同感謝して居りま
す。十時の開店後僅か一時間足ら
ずで手芸品、食べ物のおすし、ケ
ーキ等が売切れとなり、想像以上
のお客様に会員はうれしい悲鳴を
あげました。

弟もまたこの前アメリカに帰られ
たフーバ長老とオムネル長老によ
りこの教会を知ってから二年余り
の間を過して来られました。共
に強い証しを持っておられる方々
を会員としておむかえする事が出
来ました。

一日のバザーに於て私達は心か
らの愛を知る事が出来ました。岩
国の方々の協力を感謝し、この日
の収入によって多くの人が大会に
出席出来ます事を喜んで居りま

八月十三、十四日の雨日恒例に
なっている蔵王登山を致しました。
九月二十四日カメコナ長老が東
京に転任になりましたので会員求
道者達はミツシヨン・ホームに集

りささや
かなお別
れパーテ
イを致し
ました。
扶助協会
は九月か
ら今年度
の行事に
入りまし
たが役員
は昨年と
変り新し
い気分で
発足しよ
うと致し
て居りま
す。役員
は次の姉
妹たちで
す。
会長 沼
沢清野、
才一副会
長 高橋
愛子、才
二副会長
鈴木マサ、
書記 中
山紀子。



広島支部のバザー

これから秋に入り、種々の行事や集会の上にもより一層の進歩を加え得ることが出来ますよう、そして信仰をより強く持って生活することの出来ますようにと心から祈りながらこの報告を終わります。

(山形 草壁 園子)

新しい会場に恵まれる
夏休みの間、会員達が手分けして会場を探すのに努力した結果、ついに長い間希望していた自分達の会場をもつ事ができた。そして

九月の才一日曜日より新しい会場で集会を開いた。この日の証詞会は実にすばらしかった。
シン長老にとっては日本における最後の証会だった。そして九月九日には新しい会場に恵まれた祝いに「食べよう会」を開く。(出

九月の岡町の動き

MIAオープンナイト

役員任命

種々ゲームや演劇等があり、殊に演劇部では「手」の発表があり、

「MIA」

寸劇は「或る就職試験風景」(作

中島 美智子

並びに構成演出 阪本弘)は出演

(才二副会長)

全員の大張り切り好演のため満場

阪本 吉章

を笑わせて楽しい初秋の一夜であ

(書 記)

った。(九月十八日)

山田 義明

モルモン家庭才二号

「日曜学校」

上野山兄弟と姉妹の長男次男三

(書 記)

男たる真杉、建弥、寿樹の三名の

市田 昌子

会員が誕生したため岡町支部に家

「系図会」

族全員の家庭才二号が生れたこと

(才一副会長)

を祝福する。

利岡 邦夫

上野山兄弟は日曜学校の会長で

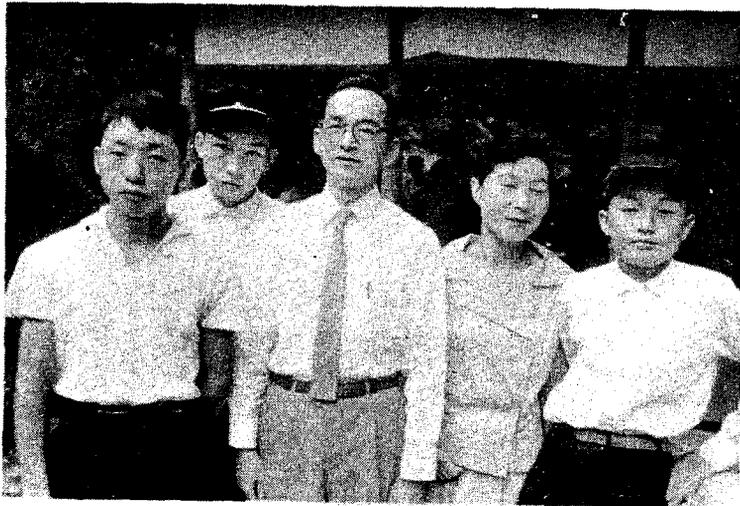
あり、上野山姉妹は初等協会の会

長と共に岡町支部の忠実な会員で

ある。

(岡町 阪本祥)

.....



上野山兄弟一家

席者約二十名)

※柏原、西花岡兄弟の誕生に続き

高原兄弟が生まれた。これで男の

会員も九名となり女子の会員にも

う一歩というところだ。

※大阪よりノーマン地方部長とフ

イリップス長老を迎えてMIAを

開く。(九月十一日)

運よくこの日はオープン・ナイト

の「楽しい夕べ」だったので、大

変楽しく過す。

※五ヶ月の間岡山支部の為に骨身

惜しまず働いて下さったシン長老

がいよいよアメリカに帰られる事

になった。(九月十四日)

当支部からこのような偉大な宣

教師を失う事は非常に残念な事だ。

しかし新しく旭川より非常に熱心

なキング長老を迎える事ができま

した事を感謝しています。

※最近日曜学校にもMIAにも三十

人近い出席者があり、岡山支部

は急速に発展している。

(三宅 寿)

.....

(九月三十日現在)

新宣教師到着

- ウエルドン・クラウダ・グツディ長老
- (ユタ州カールストン)
- ラモン・D・ハリクス長老
- (ユタ州レイトン)
- ゴールデン・ハッチ・モーゼ長老
- (ユタ州ソルトレーク市)
- ロバート・アーネスト・ヘニス長老
- (加州パーバント)
- ポール・W・ホルブルック長老
- (ユタ州パウナムチフル)
- ユーレイン・パーレット長老
- (ユタ州オレム)
- キヤロル・アン・アレマン長老
- (ユタ州ストリングヴァイル)

宣教師異動

- デリース・キング 長老 岡山支部長
- ガース・レイシユマン 長老 旭川支部
- ラリー・ビンガム 長老 松本支部
- マロン・アンドラス 長老 広島支部
- デール・W・ラスマツセン 長老 東京中央支部
- レオン・H・ヒユラー 長老 仙台支部
- ジョン・W・ワンラツス 長老 東京中央支部
- コールデン・H・モース 長老 東京中央支部
- ヴェルデン・グツディ 長老 東京中央支部
- ラモン・D・ハリクス 長老 東京南支部
- ダーレル・ヘール 長老 山形支部長
- レイ・ソイリツプス 長老 西宮支部
- ロバート・C・ヴァンダイク 長老 福岡支部
- ジョン・D・チエイス 長老 岡町支部
- デルモン・ロー 長老 柳井支部長
- ラルフ・O・ジョーンス 長老 室蘭支部長

- ダニエル・E・カメコナ 長老 東京北支部
- ジョン・W・ワンラツス 長老 東京北支部
- デルレイ・ブラウ 長老 東京西支部
- ジェーリー・T・ステイル 長老 東京西支部
- パウル・ホ・ボム・シン 長老 本部へ
- トマス・ロナルド・ヘীগ 長老 本部へ

神権授与

- 執事 矢吹富郎 旭川
 - 執事 太田輝雄 旭川
 - 執事 高木昭福 岡
 - 教師 太田豊三 福岡
 - 教師 日坂謙 名古屋
 - 教師 柳田たかお 名古屋
 - 教師 板倉ひでき 名古屋
 - 教師 曾根清 岡町
 - 教師 石川善次郎 東京中
 - 教師 丹羽三吾 東京北
 - 教師 山田政伯 東京北
 - 教師 福田勇 東京北
 - 教師 福田清治 東京北
- この外韓国にてアロン神権を与えられ執事に聖任されたもの六名。教師に昇任したものの五名。祭司に昇任されたもの四名あった。

結婚

平出のり子姉妹は一九五七年三月廿七日古田清一氏と結婚された(松本支部)

誕生と祝福

村越則男(誕生一九五五年五月三日、父村越武男、母武藤てる子)は一九五八年八月三日

オリオン・ロ・ウッド長老により祝福される(金沢支部)

柏村じゅん子(誕生一九五五年一月十二日、父柏村正俊、母佐藤よね子)は一九五八年九月七日シン長老により祝福される(岡山支部)

山本けい子(誕生一九五三年七月十四日、父山本芳男、母河端みのえ)は一九五八年九月七日シン長老により祝福される(岡山支部)

山本かず也(誕生一九五六年一月二十二日、父山本芳男、母河端みのえ)は一九五八年九月七日シン長老により祝福される(岡山支部)

死亡

大野猛兄弟(東京中央支部)は一九五八年八月十五日逝去せられた。

バプテスマ

- 中田和彦 小樽支部
- 館森孝治 松本支部
- 貞泊静子 広島支部
- 親泊静子 那覇支部
- 長みね 那覇支部
- 広田美佐子 松本支部
- 当真輝子 那覇支部
- 佐々木真一郎 那覇支部
- 高城弘毅 新潟支部
- 吉田きよの 新潟支部
- 本間貴江 新潟支部
- 伊賀山寛子 新潟支部

- 細野卓哉 西宮支部
 - 高城悦子 岡町支部
 - 辺見泰男 岡町支部
 - 前山昭子 岡町支部
 - 吉田真杉 岡町支部
 - 上野山建弥 岡町支部
 - 上野山一樹 岡町支部
 - 小東寛美 岡町支部
 - 小林春寛 岡町支部
 - 高原文彦 岡町支部
 - 柏原正二 岡町支部
 - 西村健士 岡町支部
 - 中藤隆弘 岡町支部
 - 佐藤隆弘 岡町支部
 - 木野地隆 岡町支部
 - 菊野地隆 岡町支部
 - 野原隆 岡町支部
 - 平野純弘 岡町支部
 - 山根純卓 岡町支部
 - 幸丸芳子 岡町支部
 - 三春ひろ子 岡町支部
 - 伊藤久二子 岡町支部
 - 高橋つね子 岡町支部
 - 小松徳三 岡町支部
 - 伊藤徳一 岡町支部
 - 相良健一 岡町支部
 - 萩原むめ 岡町支部
 - 湯山誉男 岡町支部
 - 田端けい太 岡町支部
- この外韓国にて二十三名バプテスマを受けました。



1919年11月27日の感謝祭の日、ハワイのライエにある神殿はヒーバー・J・グラント大管長によって献堂され、1239名の人たちがこの献堂式に参列した。これはアメリカ大陸以外の地に建造された最初の神殿で、太平洋上にある多くの島々に住む聖徒たちのために建てられたものである。ハワイ神殿の敷地は1915年6月1日ジョセフ・F・スミス大管長によって奉献された。

一九五八年三月
第三種郵便物認可第二号
一九五八年十一月一日発刊

発行人
編集人

ホーランド・C・アンソラス

発行所

末日聖徒イエス・キリスト教会
北東部
極東
伝道部

東京都港区麻布広尾町十四